

# **特別支援学級等卒業後の進路や学びに関する調査**

**(小学校・中学校特別支援学級等対象)**

# 目次

I. 概要.....	1
1. 調査目的 .....	2
2. 調査概要 .....	2
II. 児童・生徒及びその保護者の調査結果 .....	3
I お子さんについて .....	4
II 学校卒業後の進路 .....	16
III 放課後や休日の学びの場・方法の理解.....	27
IV 在学中の学びのニーズ .....	31
V 学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びのニーズ .....	40
III. 資料.....	49

# I. 概 要

## 1. 調査目的

都内区市町村立小学校、中学校の特別支援学級及び区立特別支援学校に在籍する児童・生徒の保護者に対し、児童・生徒の将来の進路等に対する意向を調査し、多様な進路のあり方について検討するための材料とする。

## 2. 調査概要

### ■調査対象

都内区市町村立小学校、中学校の特別支援学級及び区立特別支援学校に在籍する児童・生徒の保護者（以下「保護者」という。）22,000 件程度

### ■調査期間（回答受付期間）

令和7年12月8日から令和8年1月16日まで

### ■調査方法

Web フォームによる回答とする。

### ■回収率

	配布数	有効回収数	有効回収率
生徒及びその保護者	22,000	4,434	20.2%

### ■報告書の留意点・見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方をしているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、不明なものや無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

## **II. 児童・生徒及びその保護者の調査結果**

# I お子さんについて

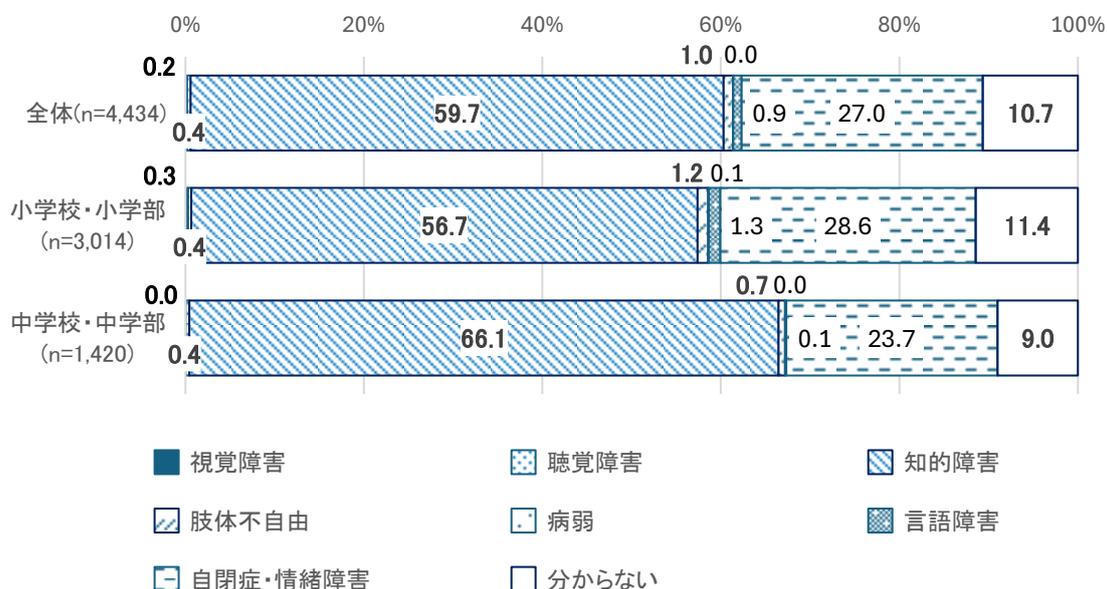
## 1-1 Q2 在籍している学級又は学校の障害種別を御回答ください

お子さんの在籍している学級又は学校の障害種別について全体では、「知的障害」が59.7%で最も高く、次いで「自閉症・情緒障害」が27.0%、「分からない」が10.7%と続いています。

小学校・小学部では、「知的障害」が56.7%で最も高く、次いで「自閉症・情緒障害」が28.6%、「分からない」が11.4%と続いています。

中学校・中学部では、「知的障害」が66.1%で最も高く、次いで「自閉症・情緒障害」が23.7%、「分からない」が9.0%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
視覚障害	9	0.3	0	0.0	9	0.2
聴覚障害	11	0.4	6	0.4	17	0.4
知的障害	1,710	56.7	938	66.1	2,648	59.7
肢体不自由	36	1.2	10	0.7	46	1.0
病弱	2	0.1	0	0.0	2	0.0
言語障害	39	1.3	2	0.1	41	0.9
自閉症・情緒障害	862	28.6	336	23.7	1,198	27.0
分からない	345	11.4	128	9.0	473	10.7
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0

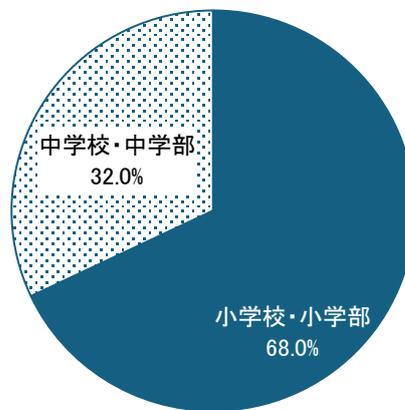


1-2 Q3 在籍している学級又は学校の学部を御回答ください

お子さんの在籍している学級又は学校については、「小学校・小学部」が68.0%、「中学校・中学部」が32.0%でした。

カテゴリー	件数	割合(%)
小学校・小学部	3,014	68.0
中学校・中学部	1,420	32.0
全体	4,434	100.0

全体  
(n=4,434)

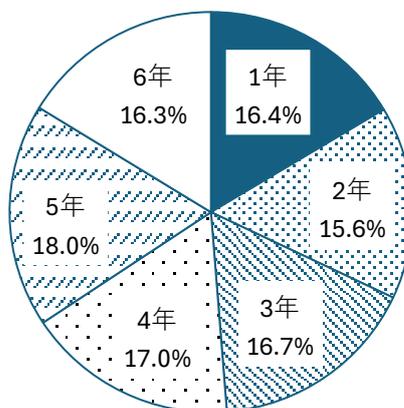


1-3 Q4 お子さんの現在の学年を御回答ください (小学校・小学部)

お子さんの現在の学年 (小学校・小学部) については、「5年」が18.0%で最も高く、次いで「4年」が17.0%、「3年」が16.7%と続いています。

カテゴリー	件数	割合(%)
1年	495	16.4
2年	470	15.6
3年	504	16.7
4年	511	17.0
5年	544	18.0
6年	490	16.3
全体	3,014	100.0

(n=3,014)

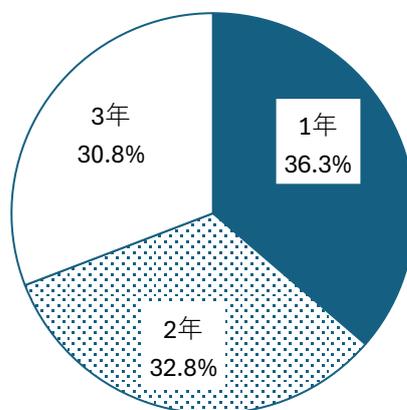


1-4 Q4 お子さんの現在の学年を御回答ください (中学校・中学部)

お子さんの現在の学年 (中学校・中学部) については、「1年」が36.3%で最も高く、次いで「2年」が32.8%、「3年」が30.8%と続いています。

カテゴリー	件数	割合(%)
1年	516	36.3
2年	466	32.8
3年	438	30.8
全体	1,420	100.0

(n=1,420)



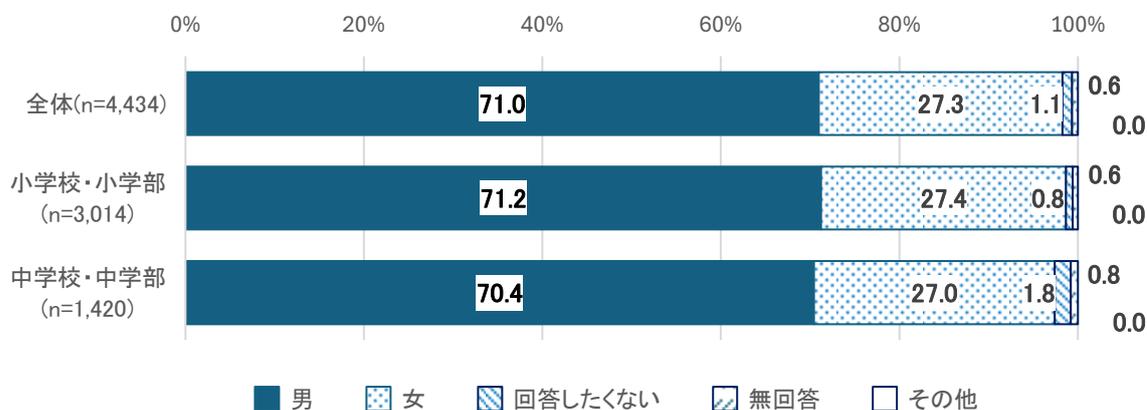
1-5 Q5 お子さんの性別を御回答ください

お子さんの性別について全体では、「男」が71.0%、「女」が27.3%でした。

小学校・小学部では、「男」が71.2%、「女」が27.4%でした。

中学校・中学部では、「男」が70.4%、「女」が27.0%でした。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
男	2,147	71.2	1,000	70.4	3,147	71.0
女	827	27.4	383	27.0	1,210	27.3
回答したくない	23	0.8	26	1.8	49	1.1
無回答	17	0.6	11	0.8	28	0.6
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



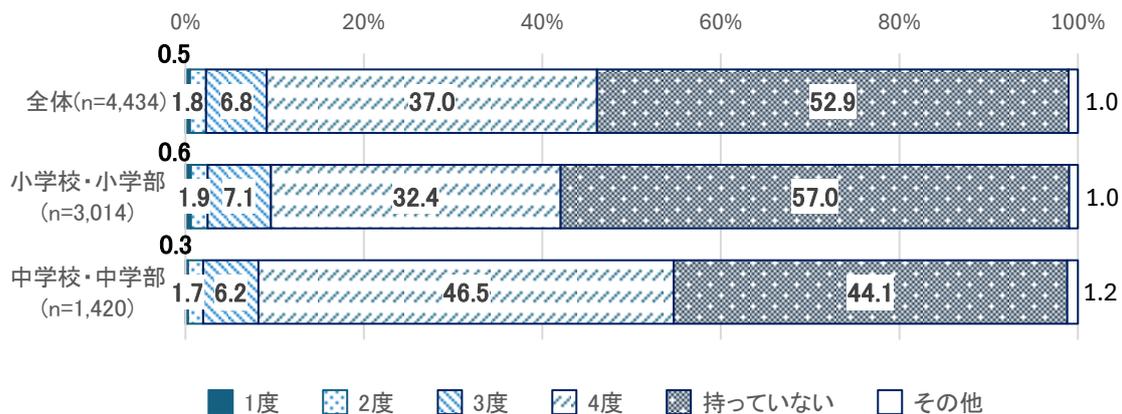
1-6 Q6 お子さんの愛の手帳の区分を御回答ください

お子さんの愛の手帳の区分について全体では、「持っていない」が52.9%で最も高く、次いで「4度」が37.0%、「3度」が6.8%と続いています。

小学校・小学部では、「持っていない」が57.0%で最も高く、次いで「4度」が32.4%、「3度」が7.1%と続いています。

中学校・中学部では、「4度」が46.5%で最も高く、次いで「持っていない」が44.1%、「3度」が6.2%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
1度	19	0.6	4	0.3	23	0.5
2度	56	1.9	24	1.7	80	1.8
3度	214	7.1	88	6.2	302	6.8
4度	978	32.4	661	46.5	1,639	37.0
持っていない	1,718	57.0	626	44.1	2,344	52.9
その他	29	1.0	17	1.2	46	1.0
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳

基準 (IQ・判定) を満たさず手帳が取得できなかった	18
申請中・申請予定 (審査待ち)	9
過去に取得していたが更新・再判定で非該当となり返納・失効した	5
手帳を取得している (療育・精神・等級の記載あり)	5
診断・認定が出ていない / グレーゾーン・境界知能のため取得できない	4
申請方法や制度が分からない	2
回答を控えたい・答えたくない	3

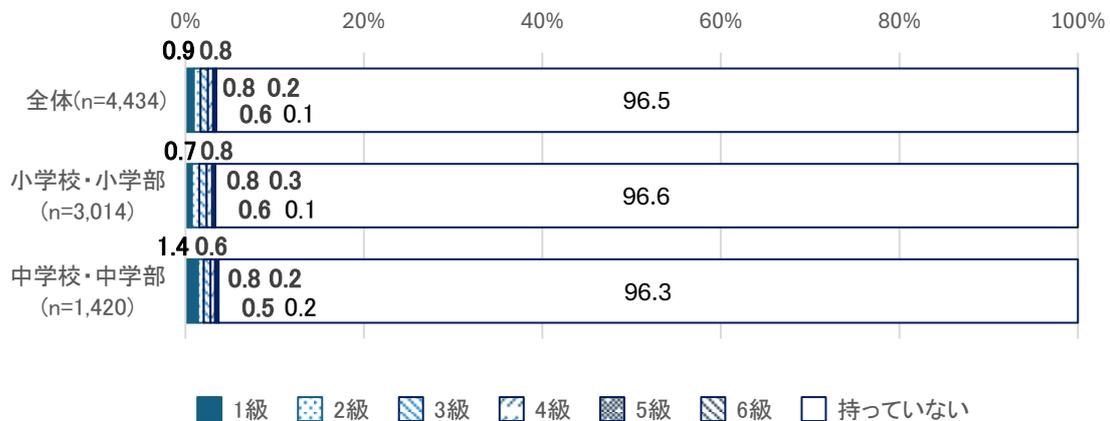
1-7 Q7 お子さんの身体障害者手帳の区分を御回答ください

お子さんの身体障害者手帳の区分について全体では、「持っていない」が96.5%で最も高く、次いで「1級」が0.9%、「2級」と「3級」が0.8%と続いています。

小学校・小学部では、「持っていない」が96.6%で最も高く、次いで「2級」と「3級」が0.8%、「1級」が0.7%と続いています。

中学校・中学部では、「持っていない」が96.3%で最も高く、次いで「1級」が1.4%、「3級」が0.8%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
1級	22	0.7	20	1.4	42	0.9
2級	25	0.8	9	0.6	34	0.8
3級	25	0.8	11	0.8	36	0.8
4級	18	0.6	7	0.5	25	0.6
5級	8	0.3	3	0.2	11	0.2
6級	3	0.1	3	0.2	6	0.1
持っていない	2,913	96.6	1,367	96.3	4,280	96.5
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



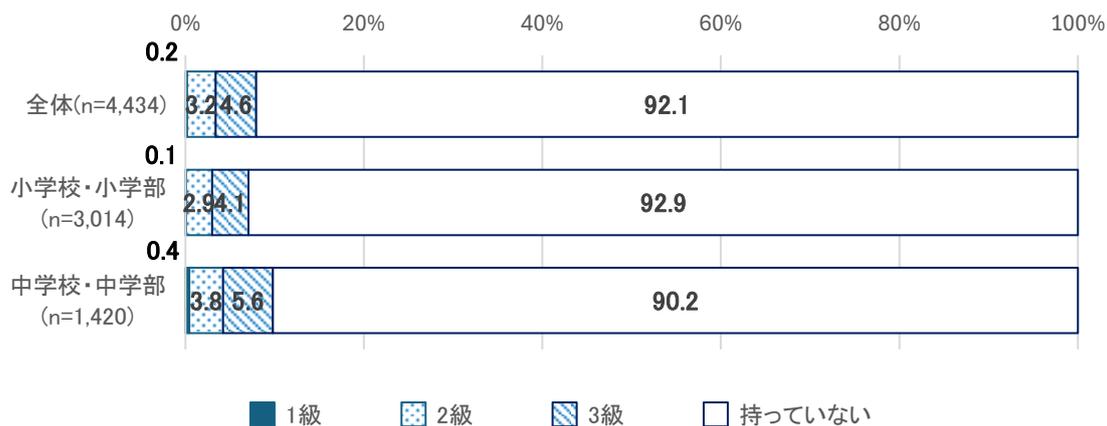
1-8 Q8 お子さんの精神障害者保健福祉手帳の区分を御回答ください

お子さんの精神障害者保健福祉手帳の区分について全体では、「持っていない」が92.1%で最も高く、次いで「3級」が4.6%、「2級」が3.2%と続いています。

小学校・小学部では、「持っていない」が92.9%で最も高く、次いで「3級」が4.1%、「2級」が2.9%と続いています。

中学校・中学部では、「持っていない」が90.2%で最も高く、次いで「3級」が5.6%、「2級」が3.8%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
1級	2	0.1	6	0.4	8	0.2
2級	88	2.9	54	3.8	142	3.2
3級	123	4.1	79	5.6	202	4.6
持っていない	2,801	92.9	1,281	90.2	4,082	92.1
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



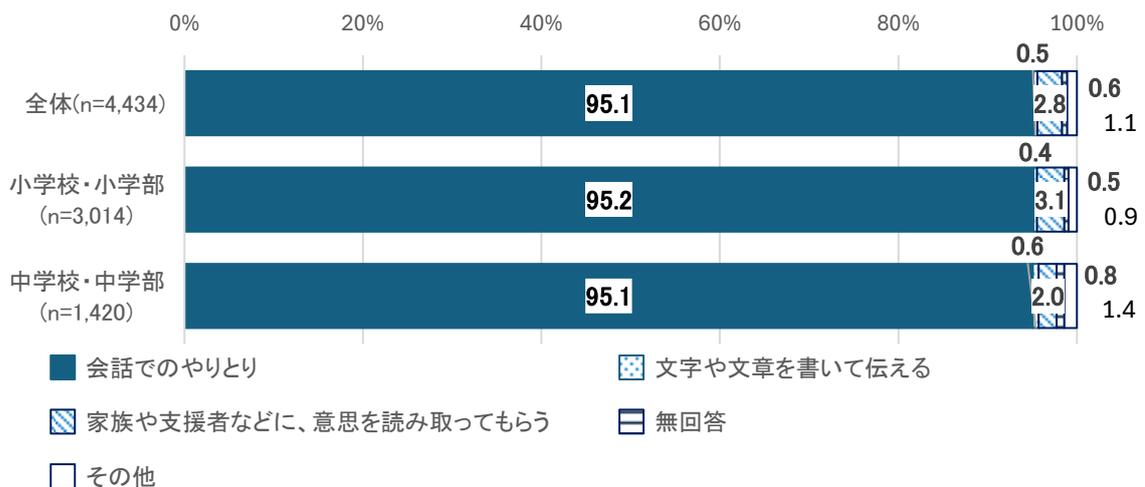
1-9 Q9 お子さんの主な意思の伝達方法を御回答ください

お子さんの主な意思の伝達方法について全体では、「会話でのやりとり」が95.1%で最も高く、次いで「家族や支援者などに、意思を読み取ってもらう」が2.8%、「その他」が1.1%と続いています。

小学校・小学部では、「会話でのやりとり」が95.2%で最も高く、次いで「家族や支援者などに、意思を読み取ってもらう」が3.1%、「その他」が0.9%と続いています。

中学校・中学部では、「会話でのやりとり」が95.1%で最も高く、次いで「家族や支援者などに、意思を読み取ってもらう」が2.0%、「その他」が1.4%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
会話でのやりとり	2,868	95.2	1,350	95.1	4,218	95.1
文字や文章を書いて伝える	11	0.4	9	0.6	20	0.5
家族や支援者などに、意思を読み取ってもらう	93	3.1	29	2.0	122	2.8
無回答	14	0.5	12	0.8	26	0.6
その他	28	0.9	20	1.4	48	1.1
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳 (複数回答)

主に会話でやり取りできるが、場面や内容によって意思の読み取りが必要	16
家庭では会話できるが、学校・外出先など慣れない場面では会話が困難	11
会話は可能だが、理解力や表現力が限定的で補助(察し・支援)が必要	8
会話とジェスチャー・筆談・文字・視覚支援を併用して意思疎通している	8
意思疎通に特に問題なく、普通に会話できる	6
単語・片言・二語文・ジェスチャー中心で周囲が意思を読み取る	6
ジェスチャー・サイン・絵カード・手話など非音声中心の意思疎通	5

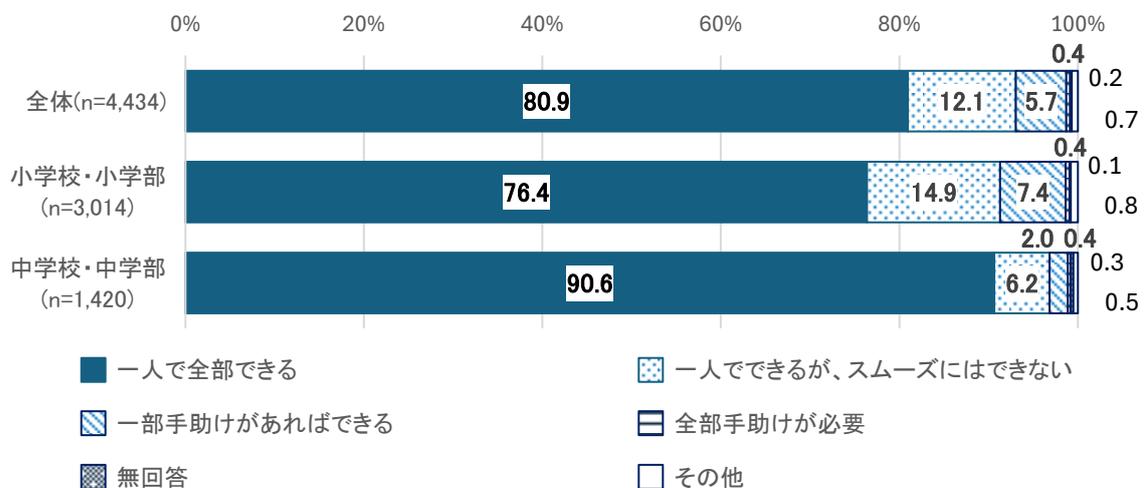
1-10 Q10 お子さんの着替え、排せつ、食事などの動作能力を御回答ください

お子さんの着替え、排せつ、食事などの動作能力について全体では、「一人で全部できる」が80.9%で最も高く、次いで「一人でできるが、スムーズにはできない」が12.1%、「一部手助けがあればできる」が5.7%と続いています。

小学校・小学部では、「一人で全部できる」が76.4%で最も高く、次いで「一人でできるが、スムーズにはできない」が14.9%、「一部手助けがあればできる」が7.4%と続いています。

中学校・中学部では、「一人で全部できる」が90.6%で最も高く、次いで「一人でできるが、スムーズにはできない」が6.2%、「一部手助けがあればできる」が2.0%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
一人で全部できる	2,302	76.4	1,287	90.6	3,589	80.9
一人でできるが、スムーズにはできない	449	14.9	88	6.2	537	12.1
一部手助けがあればできる	222	7.4	29	2.0	251	5.7
全部手助けが必要	13	0.4	5	0.4	18	0.4
無回答	4	0.1	4	0.3	8	0.2
その他	24	0.8	7	0.5	31	0.7
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳 (複数回答)

基本的には自立しているが、声かけ・確認・見守りが必要な場面がある	10
排せつに関して一部または全面的な介助が必要(オムツ、拭けない、外で不可など)	9
排せつに医療的・専門的介助が必要(導尿・洗腸・疾患対応など)	5
着替えは概ねできるが、誤りや苦手さがあり声かけ・修正が必要	4
排せつのみ介助が必要で、それ以外は自立している	4
技術的には可能だが、こだわり・不安・心理的要因で介助が必要	4
食事動作に配慮・声かけ・見守りが必要(手づかみ、集中困難など)	4
ほぼ健常・介助不要	1

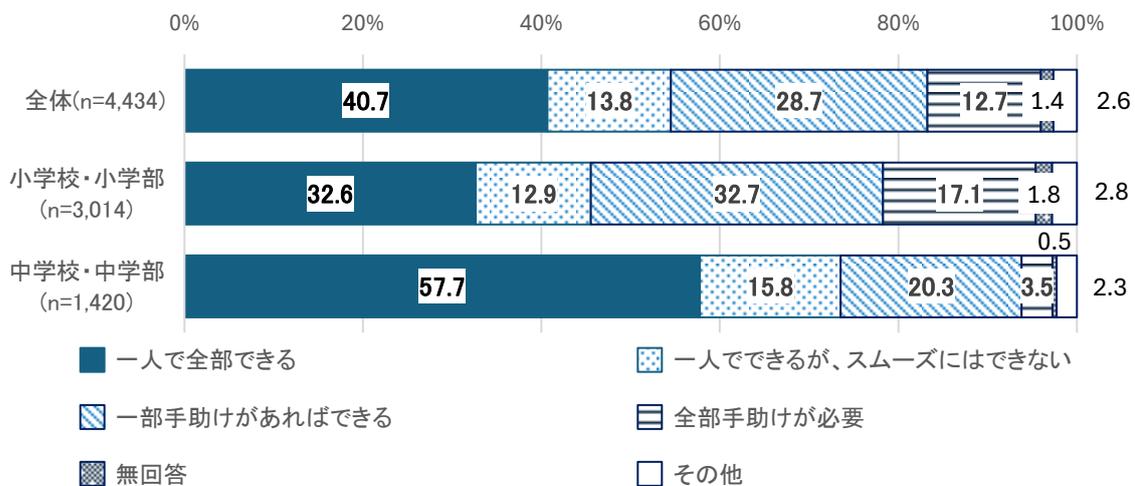
1-11 Q11 お子さんの公共交通機関等の移動に必要な動作能力を御回答ください

お子さんの公共交通機関等の移動に必要な動作能力について全体では、「一人で全部できる」が40.7%で最も高く、次いで「一部手助けがあればできる」が28.7%、「一人でできるが、スムーズにはできない」が13.8%と続いています。

小学校・小学部では、「一部手助けがあればできる」が32.7%で最も高く、次いで「一人で全部できる」が32.6%、「全部手助けが必要」が17.1%と続いています。

中学校・中学部では、「一人で全部できる」が57.7%で最も高く、次いで「一部手助けがあればできる」が20.3%、「一人でできるが、スムーズにはできない」が15.8%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
一人で全部できる	984	32.6	820	57.7	1,804	40.7
一人でできるが、スムーズにはできない	389	12.9	224	15.8	613	13.8
一部手助けがあればできる	986	32.7	288	20.3	1,274	28.7
全部手助けが必要	516	17.1	49	3.5	565	12.7
無回答	55	1.8	7	0.5	62	1.4
その他	84	2.8	32	2.3	116	2.6
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳 (複数回答)

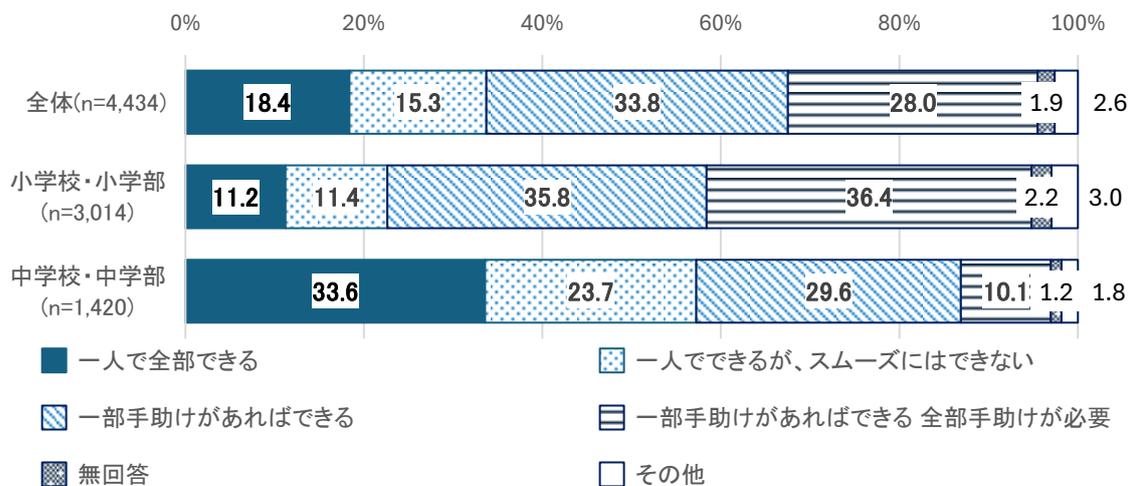
年齢・方針等により、これまで一人で公共交通機関を利用させたことがなく不明	46
教えたり練習したりすれば一人で利用できると思われるが、実際の経験はない	27
保護者等の付き添いがあれば利用できるが、一人での利用はできない	22
慣れたルート・決まった場所であれば一人で利用できる	15
乗り降りやICカード操作などの動作はできるが、行き先把握・判断が難しい	13
危険認知・健康面・障害特性により見守りや介助が必要	10
一人で公共交通機関を利用でき、特に問題はない	4
設問の意味が分かりにくく回答しづらい	2

お子さんの買物や銀行での預金の出し入れなどの金銭の管理能力について全体では、「一部手助けがあればできる」が33.8%で最も高く、次いで「全部手助けが必要」が28.0%、「一人で全部できる」が18.4%と続いています。

小学校・小学部では、「全部手助けが必要」が36.4%で最も高く、次いで「一部手助けがあればできる」が35.8%、「一人でできるが、スムーズにはできない」が11.4%と続いています。

中学校・中学部では、「一人で全部できる」が33.6%で最も高く、次いで「一部手助けがあればできる」が29.6%、「一人でできるが、スムーズにはできない」が23.7%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
一人で全部できる	338	11.2	477	33.6	815	18.4
一人でできるが、スムーズにはできない	344	11.4	336	23.7	680	15.3
一部手助けがあればできる	1,078	35.8	421	29.6	1,499	33.8
全部手助けが必要	1,098	36.4	143	10.1	1,241	28.0
無回答	67	2.2	17	1.2	84	1.9
その他	89	3.0	26	1.8	115	2.6
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



#### ■その他の内訳（複数回答）

年齢・方針等により、買物や金銭管理をまだ経験させておらず不明	55
買物の流れや支払い動作は理解・実行できるが、金銭管理はできない／任せていない	24
簡単・慣れた買物であれば一人で可能だが、金銭管理は手助けが必要	13
保護者管理のもと、必要額のみ渡す／決まった物のみ購入させている	12
金銭の価値理解や計画性が弱く、無駄遣い・使い切りが起きやすい	10
一人で買物・金銭管理ともに概ねできる(または練習中)	4
設問の意図が分かりにくく回答しづらい	2
健常で介助不要	1

## II 学校卒業後の進路

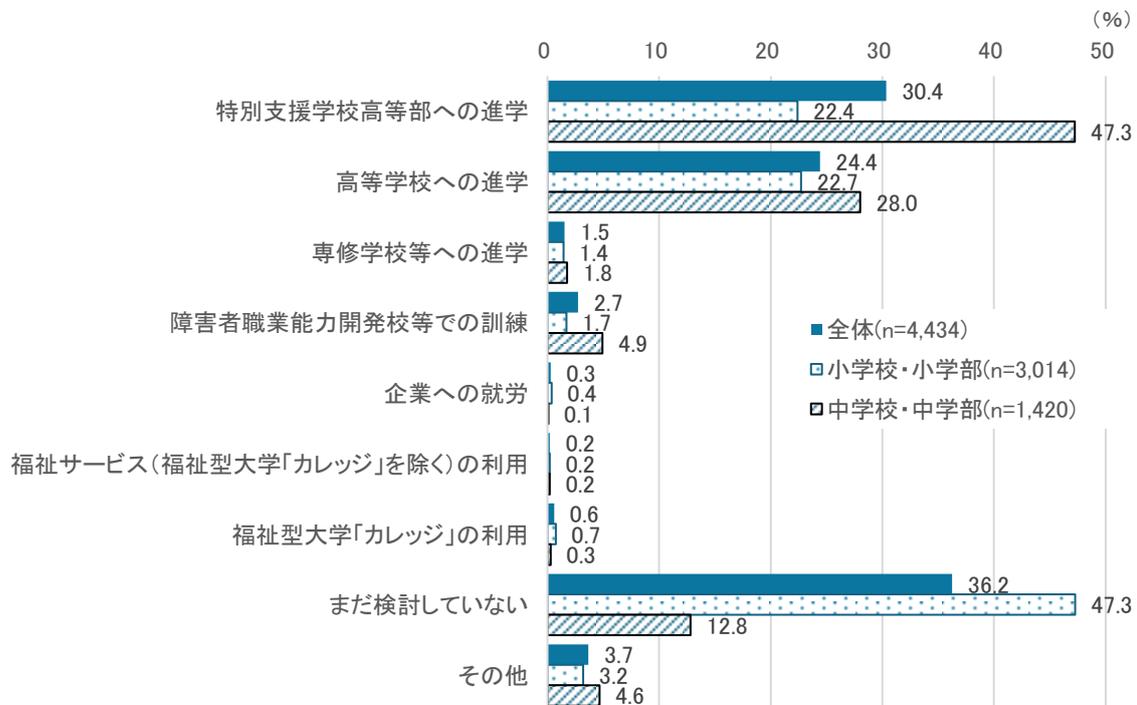
### 2-1 Q13 お子さんの中学校・中学部卒業後に希望する進路先を御回答ください

お子さんの中学校・中学部卒業後に希望する進路先について全体では、「まだ検討していない」が36.2%で最も高く、次いで「特別支援学校高等部への進学」が30.4%、「高等学校への進学」が24.4%と続いています。

小学校・小学部では、「まだ検討していない」が47.3%で最も高く、次いで「高等学校への進学」が22.7%、「特別支援学校高等部への進学」が22.4%と続いています。

中学校・中学部では、「特別支援学校高等部への進学」が47.3%で最も高く、次いで「高等学校への進学」が28.0%、「まだ検討していない」が12.8%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
特別支援学校高等部への進学	675	22.4	671	47.3	1,346	30.4
高等学校への進学	685	22.7	398	28.0	1,083	24.4
専修学校等への進学	43	1.4	25	1.8	68	1.5
障害者職業能力開発校等での訓練	51	1.7	70	4.9	121	2.7
企業への就労	11	0.4	1	0.1	12	0.3
福祉サービス(福祉型大学「カレッジ」を除く)の利用	6	0.2	3	0.2	9	0.2
福祉型大学「カレッジ」	22	0.7	4	0.3	26	0.6
まだ検討していない	1,425	47.3	182	12.8	1,607	36.2
その他	96	3.2	66	4.6	162	3.7
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳（複数回答）

通信制高校(サポート校・通学型含む)を主な進路として検討・希望している	38
進路を検討中・未定(本人の成長・希望次第、迷っている)	34
情報不足で選択肢や制度が分からず困っている／調べ方が分からない	22
特別支援学校(高等部・就業技術科・高等特別支援学校)を検討・希望	20
チャレンジスクール・エンカレッジスクールなど都立の柔軟な高校を検討	15
手帳が取得できない／境界域のため進路選択が制限され悩んでいる	14
専門学校・高等専修学校・技能連携校など職業系進路を検討	12
フリースクール・不登校支援型の学校を検討	10
本人の希望(職業・得意分野)を重視して決めたい	9
就労・職業能力開発・カレッジ・就労移行支援など進学以外も視野	8
中学校段階(通常級・支援級・特別支援中学)の進路自体を検討中	7
普通高校・私立高校・工業高校など一般高校を検討	6
高卒資格取得(高卒認定含む)を最優先で考えている	5
医療的理由・健康面(てんかん等)で進路をまだ考えられない	3
家で過ごす／就労させず福祉サービス中心を希望	2

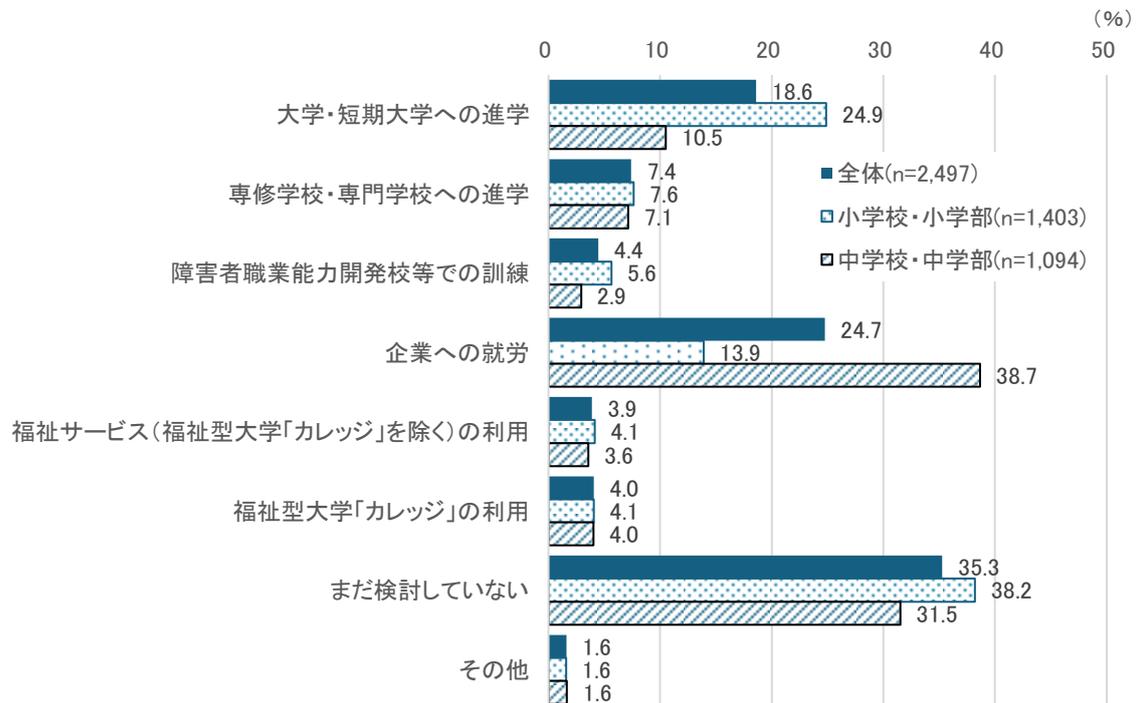
(Q13で「特別支援学校高等部への進学」「高等学校への進学」「専修学校等への進学」を回答した場合)  
 Q14 お子さんの高等学校段階卒業後に希望する進路を御回答ください

お子さんの高等学校段階卒業後に希望する進路について全体では、「まだ検討していない」が35.3%で最も高く、次いで「企業への就労」が24.7%、「大学・短期大学への進学」が18.6%と続いています。

小学校・小学部では、「まだ検討していない」が38.2%で最も高く、次いで「大学・短期大学への進学」が24.9%、「企業への就労」が13.9%と続いています。

中学校・中学部では、「企業への就労」が38.7%で最も高く、次いで「まだ検討していない」が31.5%、「大学・短期大学への進学」が10.5%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
大学・短期大学への進学	349	24.9	115	10.5	464	18.6
専修学校・専門学校への進学	107	7.6	78	7.1	185	7.4
障害者職業能力開発校等での訓練	79	5.6	32	2.9	111	4.4
企業への就労	195	13.9	423	38.7	618	24.7
福祉サービス(福祉型大学「カレッジ」を除く)の利用	58	4.1	39	3.6	97	3.9
福祉型大学「カレッジ」	57	4.1	44	4.0	101	4.0
まだ検討していない	536	38.2	345	31.5	881	35.3
その他	22	1.6	18	1.6	40	1.6
全体	1,403	100.0	1,094	100.0	2,497	100.0



■ その他の内訳（複数回答）

本人の希望・能力・状態を見ながら将来決めたい(未定・時期尚早・成長次第)	12
進路や制度が分からず悩んでいる／判断材料が不足している	6
進学(大学・専門学校・学びを継続できる場)を希望・検討	6
就労(一般就労・障害者雇用・就労継続 A 型/B 型等)を検討・想定	5
福祉型カレッジ・専攻科などの進路に関心・検討中	4
具体的な職業・将来像がある(起業、看護師、農家、親の事業継承、留学など)	6
質問設計・選択肢の不十分さへの指摘(複数回答不可・時点不適合)	2

(Q13で「障害者職業能力開発校等での訓練」「福祉型大学「カレッジ」」、またはQ14で「大学・短期大学への進学」「専修学校・専門学校への進学」「障害者職業能力開発校等での訓練」「福祉型大学「カレッジ」」を回答した場合)

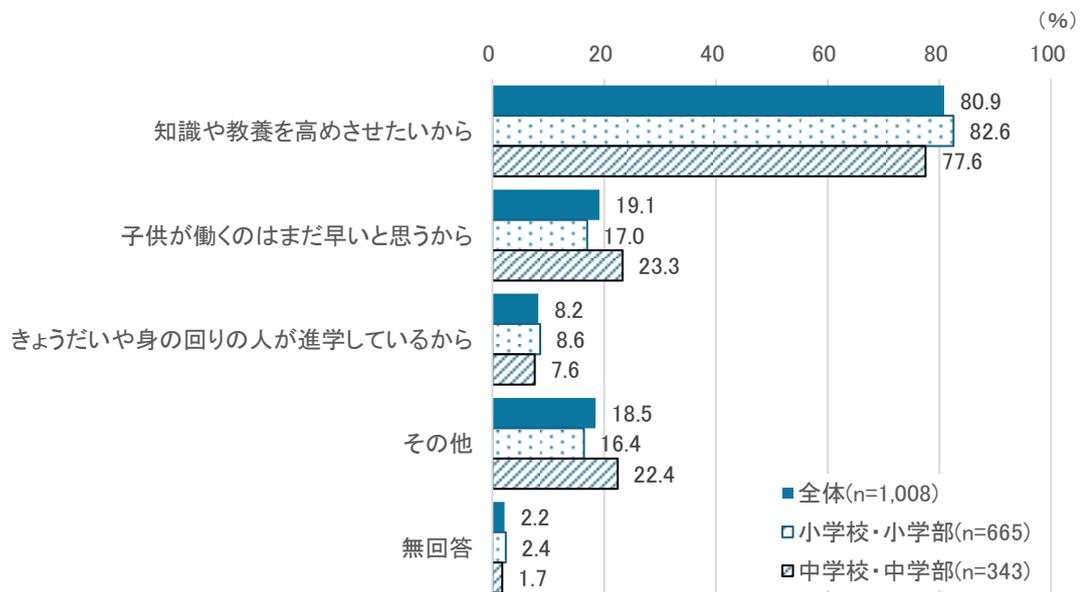
Q15 その理由を御回答ください(複数回答)

Q13で「障害者職業能力開発校等での訓練」「福祉型大学「カレッジ」」、またはQ14で「大学・短期大学への進学」「専修学校・専門学校への進学」「障害者職業能力開発校等での訓練」「福祉型大学「カレッジ」」を選んだ理由について全体では、「知識や教養を高めさせたいから」が80.9%で最も高く、次いで「子供が働くのはまだ早いと思うから」が19.1%、「その他」が18.5%と続いています。

小学校・小学部では、「知識や教養を高めさせたいから」が82.6%で最も高く、次いで「子供が働くのはまだ早いと思うから」が17.0%、「その他」が16.4%と続いています。

中学校・中学部では、「知識や教養を高めさせたいから」が77.6%で最も高く、次いで「子供が働くのはまだ早いと思うから」が23.3%、「その他」が22.4%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
知識や教養を高めさせたいから	549	82.6	266	77.6	815	80.9
子供が働くのはまだ早いと思うから	113	17.0	80	23.3	193	19.1
きょうだいや身の回りの人が進学しているから	57	8.6	26	7.6	83	8.2
その他	109	16.4	77	22.4	186	18.5
無回答	16	2.4	6	1.7	22	2.2
全体	665	100.0	343	100.0	1,008	100.0



■その他の内訳（複数回答）

本人の希望・意思を尊重したいから(進学・就労・進路全般)	68
将来の選択肢を広げたい／可能性を狭めたくないから	42
将来の就労・自立に向けて力を付けたい(社会的自立・生活力・就労準備)	36
なりたい職業・夢・興味分野があり、それに必要な学びや資格があるから	34
進学(大学・専門学校等)で学びを続けた方が良いと考えている	29
就職・就労(一般就労・障害者雇用)を見据えた能力形成のため	26
成長がゆっくりであるため、すぐ就労させず学ぶ時間を確保したい	18
本人の能力・適性に合った進路を見極めたい	17
学ぶ権利・公平性の観点(障害があっても学ぶ機会を奪いたくない)	9
家庭事情・家業・経済的理由(学費、家業継承など)	7
福祉サービスの利用・作業所はまだ早い／最終手段と考えている	6
社会経験・人間関係・社会性を身に付けさせたい	6
医療・制度・手帳等の制約により一般ルートを選ばざるを得ない	5
周囲(先生・相談員等)からの助言・勧めがあった	3
まだ判断できず、今後考えたい／未定	3

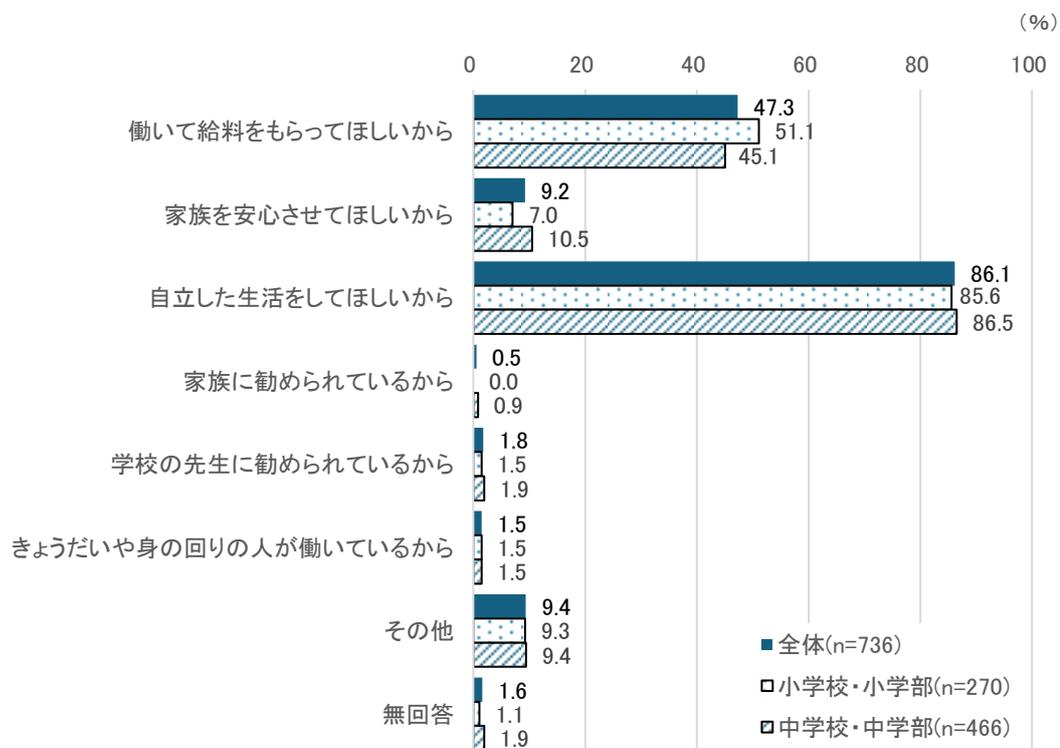
## Q16 その理由を御回答ください(複数回答)

Q13またはQ14で「企業への就労」「福祉サービス(福祉型大学「カレッジ」を除く)の利用」を選んだ理由について全体では、「自立した生活をしてほしいから」が86.1%で最も高く、次いで「働いて給料をもらってほしいから」が47.3%、「その他」が9.4%と続いています。

小学校・小学部では、「自立した生活をしてほしいから」が85.6%で最も高く、次いで「働いて給料をもらってほしいから」が51.1%、「その他」が9.3%と続いています。

中学校・中学部では、「自立した生活をしてほしいから」が86.5%で最も高く、次いで「働いて給料をもらってほしいから」が45.1%、「家族を安心させてほしいから」が10.5%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
働いて給料をもらってほしいから	138	51.1	210	45.1	348	47.3
家族を安心させてほしいから	19	7.0	49	10.5	68	9.2
自立した生活をしてほしいから	231	85.6	403	86.5	634	86.1
家族に勧められているから	0	0.0	4	0.9	4	0.5
学校の先生に勧められているから	4	1.5	9	1.9	13	1.8
きょうだいや身の回りの人が働いているから	4	1.5	7	1.5	11	1.5
その他	25	9.3	44	9.4	69	9.4
無回答	3	1.1	9	1.9	12	1.6
全体	270	100.0	466	100.0	736	100.0



■ その他の内訳（複数回答）

本人の意思・希望を尊重している(働きたい／決めている)	24
進学は難しい・選択肢が限られており就労を選ばざるを得ない	14
社会で自立し、社会の一員として生きてほしい(自立・社会参加)	13
特別支援学校高等部就業技術科・職能開発科で就労準備を進めたい	7
障害特性・学力・体力の面から進学が現実的でない	7
本人にやりがい・自信・自己肯定感を持って働いてほしい	6
家庭事情(ひとり親・親の病気・経済的不安)により早期自立を望む	5
企業就労・障害者雇用を目指している	5
社会とのつながり・孤立防止を重視している	4
他に進路の選択肢がない／制度上就労ルートしか見えない	4
本人に具体的な就きたい仕事・目標がある	4
医師・教員・専門家からの助言・勧めがあった	2
進学させたい気持ちはあるが、環境・支援不足で断念している	2
就労移行支援・福祉型カレッジなどの進路を検討している	2

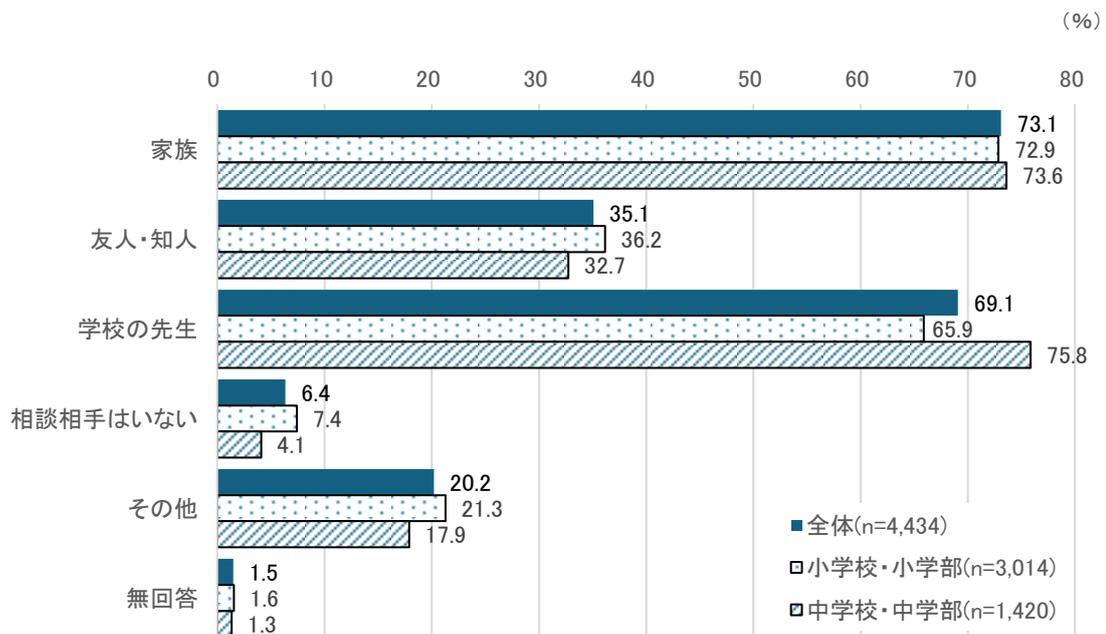
2-5 Q17 進路について相談できる人を御回答ください（複数回答）

進路について相談できる人について全体では、「家族」が73.1%で最も高く、次いで「学校の先生」が69.1%、「友人・知人」が35.1%と続いています。

小学校・小学部では、「家族」が72.9%で最も高く、次いで「学校の先生」が65.9%、「友人・知人」が36.2%と続いています。

中学校・中学部では、「学校の先生」が75.8%で最も高く、次いで「家族」が73.6%、「友人・知人」が32.7%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
家族	2,196	72.9	1,045	73.6	3,241	73.1
友人・知人	1,090	36.2	465	32.7	1,555	35.1
学校の先生	1,986	65.9	1,077	75.8	3,063	69.1
相談相手はいない	224	7.4	58	4.1	282	6.4
その他	642	21.3	254	17.9	896	20.2
無回答	47	1.6	19	1.3	66	1.5
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳

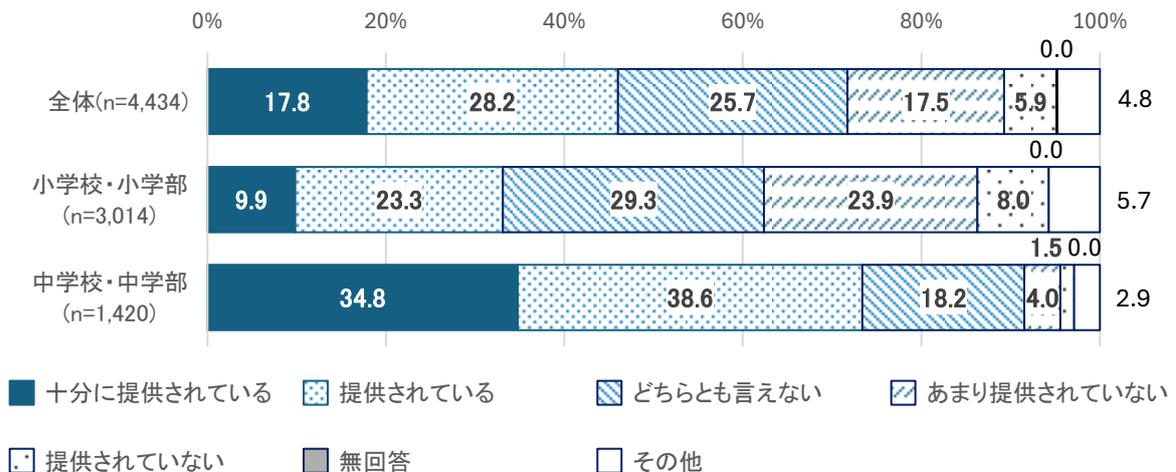
放課後等デイサービス職員・スタッフに相談している	117
医療機関(主治医・病院の先生・精神科/児童精神科・セラピスト/ST/OT/PT・心理士)に相談している	92
相談支援事業所・相談支援員・計画相談(相談計画担当)に相談している	66
療育機関・療育先(療育センター/教室/発達支援施設の先生)に相談している	63
行政・公的機関福祉課/福祉事務所/保健師/教育委員会等に相談している	38
教育相談系(教育センター/教育相談室/教育支援センター/スクールカウンセラー/スクールソーシャルワーカー)に相談している	34
塾・学習支援(塾講師/発達障害児向け塾/家庭教師/学習支援者)に相談している	24
施設・事業所職員(福祉施設職員、入所施設、移動支援、訪問支援等のスタッフ)に相談している	22
家族・親戚・知人(家族会議、親戚、職場の人、先輩保護者、ママ友等)に相談している	21
フリースクール・不登校支援(フリースクールの先生、支援団体、説明会等)に相談している	12
親の会・NPO・民間相談(親の会、NPOの有償相談、民間支援サポート、ペアレント・トレーニング等)に相談している	11
進路説明会・合同相談会・セミナー等で情報収集している	4
相談先がない/相談しても答えが得られない(窓口が分散、情報不足)	4
未検討・まだ相談段階にない/必要時に探す予定	3
本人に相談している	1
その他	384

進路に関する情報は、学校から十分に提供されているかについて全体では、「十分に提供されている」が17.8%、「提供されている」が28.2%と、46.0%が『提供されている』と回答しました。

小学校・小学部では、「十分に提供されている」が9.9%、「提供されている」が23.3%と、33.2%が『提供されている』と回答しました。

中学校・中学部では、「十分に提供されている」が34.8%、「提供されている」が38.6%と、73.4%が『提供されている』と回答しました。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
十分に提供されている	297	9.9	494	34.8	791	17.8
提供されている	701	23.3	548	38.6	1,249	28.2
どちらとも言えない	882	29.3	258	18.2	1,140	25.7
あまり提供されていない	721	23.9	57	4.0	778	17.5
提供されていない	241	8.0	22	1.5	263	5.9
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	172	5.7	41	2.9	213	4.8
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



#### ■ その他の内訳

学年・時期尚早のため、進路情報はまだ提供されていない／話題にならない	110
提供状況を確認していない・判断材料がなくわからない	66
情報が不十分・偏りがある	14
教育相談・父母会・説明会・卒業生保護者・塾・SNS等で自力収集している	10
一定の情報提供はある(面談で提示、掲示物、保護者会等)	7
聞けば教えてくれるが、こちらから聞かないと提案されにくい	6

### Ⅲ 放課後や休日の学びの場・方法の理解

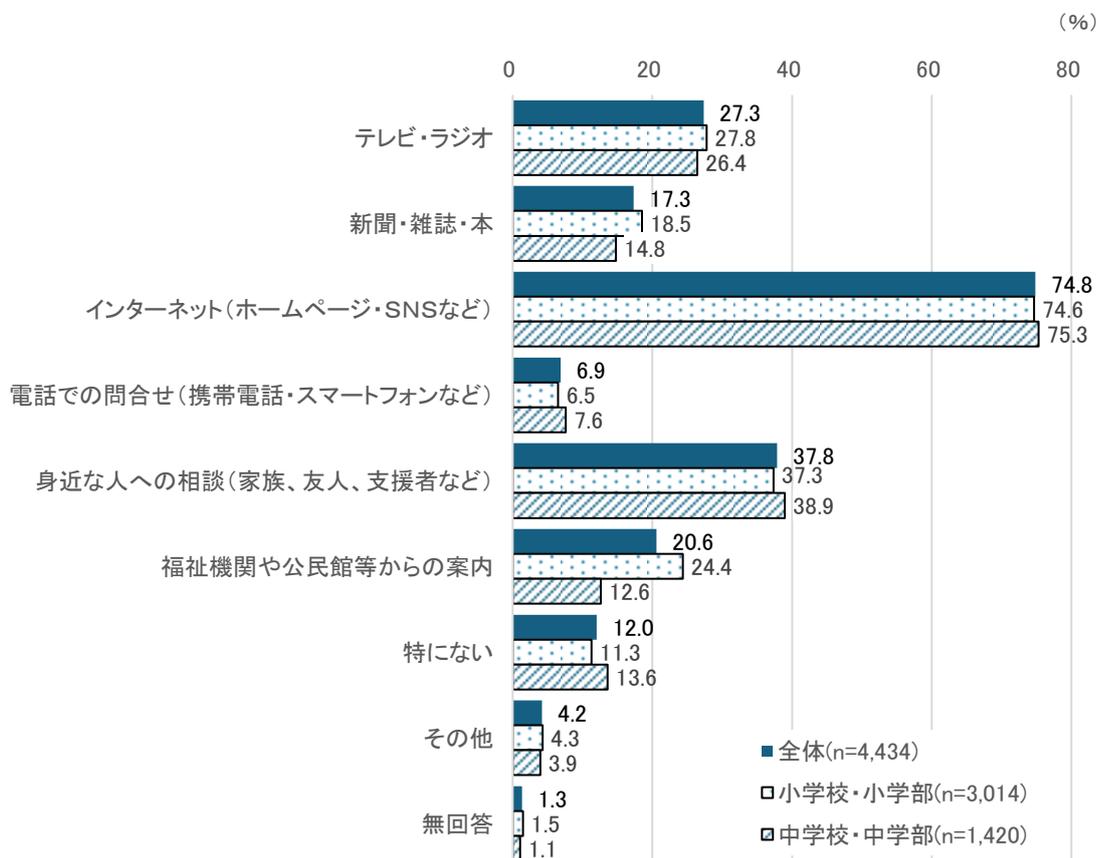
#### 3-1 Q19 放課後や休日にお子さんが学ぶための情報の入手方法を御回答ください（複数回答）

放課後や休日にお子さんが学ぶための情報の入手方法について全体では、「インターネット（ホームページ・SNSなど）」が74.8%で最も高く、次いで「身近な人への相談（家族、友人、支援者など）」が37.8%、「テレビ・ラジオ」が27.3%と続いています。

小学校・小学部では、「インターネット（ホームページ・SNSなど）」が74.6%で最も高く、次いで「身近な人への相談（家族、友人、支援者など）」が37.3%、「テレビ・ラジオ」が27.8%と続いています。

中学校・中学部では、「インターネット（ホームページ・SNSなど）」が75.3%で最も高く、次いで「身近な人への相談（家族、友人、支援者など）」が38.9%、「テレビ・ラジオ」が26.4%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
テレビ・ラジオ	837	27.8	375	26.4	1,212	27.3
新聞・雑誌・本	558	18.5	210	14.8	768	17.3
インターネット(ホームページ・SNSなど)	2,249	74.6	1,069	75.3	3,318	74.8
電話での問合せ(携帯電話・スマートフォンなど)	196	6.5	108	7.6	304	6.9
身近な人への相談(家族、友人、支援者など)	1,125	37.3	553	38.9	1,678	37.8
福祉機関や公民館等からの案内	734	24.4	179	12.6	913	20.6
特にない	340	11.3	193	13.6	533	12.0
その他	129	4.3	56	3.9	185	4.2
無回答	44	1.5	15	1.1	59	1.3
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳

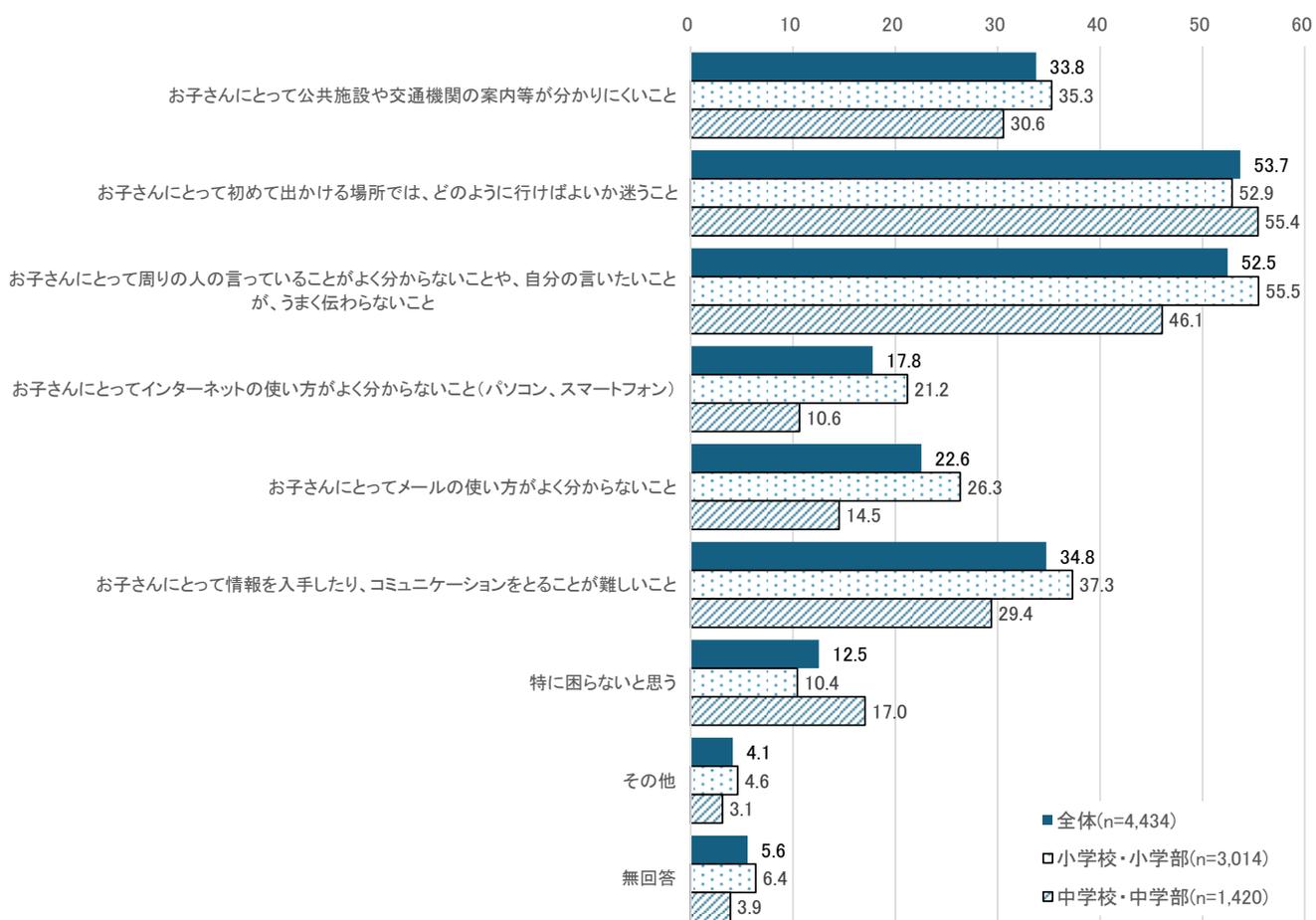
放課後等デイサービスからの情報／プログラム利用	26
学習塾・家庭教師・そろばん等の学習支援	23
学校からの配布物・チラシ・プリント・区報など公式資料	19
保護者自身が主体的に情報収集(親・家族・自宅学習・検索)	12
保護者同士の情報交換(ママ友・親の会・先輩保護者)	7
タブレット教材・通信教育・学習アプリ	7
習い事・スポーツ・文化活動(ダンス、音楽、プログラミング等)	6
YouTube・インターネット・SNS・AI などオンライン情報	6
図書館・市民センター・児童館など公共施設の情報	5
療育先・民間療育教室・医療・相談員からの助言	5
学童・フリースペース・地域イベント等	4
情報収集がうまくできていない	4
本人の興味・要望を起点に探している	3
特に情報収集していない／必要を感じていない	3
その他	55

放課後や休日にお子さんが学ぶための情報の入手や、活動団体とコミュニケーションをとる上で困りそうなお子さんについて全体では、「お子さんにとって初めて出かける場所では、どのように行けばよいか迷うこと」が53.7%で最も高く、次いで「お子さんにとって周りの人の言っていることがよく分からないことや、自分の言いたいことが、うまく伝わらないこと」が52.5%、「お子さんにとって情報を入手したり、コミュニケーションをとることが難しいこと」が34.8%と続いています。

小学校・小学部では、「お子さんにとって周りの人の言っていることがよく分からないことや、自分の言いたいことが、うまく伝わらないこと」が55.5%で最も高く、次いで「お子さんにとって初めて出かける場所では、どのように行けばよいか迷うこと」が52.9%、「お子さんにとって情報を入手したり、コミュニケーションをとることが難しいこと」が37.3%と続いています。

中学校・中学部では、「お子さんにとって初めて出かける場所では、どのように行けばよいか迷うこと」が55.4%で最も高く、次いで「お子さんにとって周りの人の言っていることがよく分からないことや、自分の言いたいことが、うまく伝わらないこと」が46.1%、「お子さんにとって公共施設や交通機関の案内等が分かりにくいこと」が30.6%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
お子さんにとって公共施設や交通機関の案内等が分かりにくいこと	1,063	35.3	434	30.6	1,497	33.8
お子さんにとって初めて出かける場所では、どのように行けばよいか迷うこと	1,594	52.9	787	55.4	2,381	53.7
お子さんにとって周りの人の言っていることがよく分からないことや、自分の言いたいことが、うまく伝わらないこと	1,672	55.5	654	46.1	2,326	52.5
お子さんにとってインターネットの使い方がよく分からないこと(パソコン、スマートフォン)	638	21.2	151	10.6	789	17.8
お子さんにとってメールの使い方がよく分からないこと	794	26.3	206	14.5	1,000	22.6
お子さんにとって情報を入手したり、コミュニケーションをとることが難しいこと	1,124	37.3	417	29.4	1,541	34.8
特に困らないと思う	314	10.4	242	17.0	556	12.5
その他	139	4.6	44	3.1	183	4.1
無回答	192	6.4	55	3.9	247	5.6
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳 (複数回答)

新しい人・場所・環境が苦手／不安・緊張・パニックになりやすい	58
一人で行動・外出・移動ができない／必ず保護者の付き添いが必要	46
低学年のため本人主体での情報収集・行動がまだできない	44
コミュニケーションの困難(緘黙、発語不明瞭、一方的会話、相手理解が難しい等)	38
発達特性を理解してもらえない不安・受け入れ先が少ない	31
文字・漢字が読めない／文章理解が難しい	24
感覚過敏(音・人混み・視覚刺激等)による負担が大きい	21
本人に学習・参加の意欲がない／興味が限定的	19
情報は親が担っており、本人は困っていない／困りを自覚していない	17
ネット・SNS 利用時に目的外に逸れる／トラブルが心配	15
送迎・距離・時間など物理的制約(遠い・交通手段が難しい)	14
支援資源・活動団体そのものが少ない／選択肢が極端に少ない	13
質問の意図が分からない／判断材料がなく回答できない	12
トラブル時の対応力・臨機応変さへの不安	11
障害をどこまで開示すべきか悩む／説明の難しさ	10

## IV 在学中の学びの二ーズ

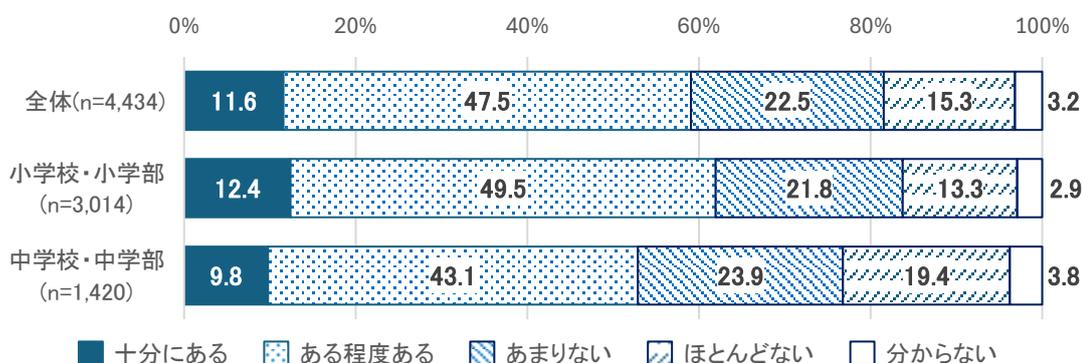
### 4-1 Q21 お子さんの現在の学校以外の学びの機会を御回答ください

お子さんの現在の学校以外の学びの機会について全体では、「十分にある」が11.6%、「ある程度ある」が47.5%と、59.1%が『ある』と回答しました。

小学校・小学部では、「十分にある」が12.4%、「ある程度ある」が49.5%と、61.9%が『ある』と回答しました。

中学校・中学部では、「十分にある」が9.8%、「ある程度ある」が43.1%と、52.9%が『ある』と回答しました。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
十分にある	374	12.4	139	9.8	513	11.6
ある程度ある	1,493	49.5	612	43.1	2,105	47.5
あまりない	657	21.8	339	23.9	996	22.5
ほとんどない	402	13.3	276	19.4	678	15.3
分からない	88	2.9	54	3.8	142	3.2
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0

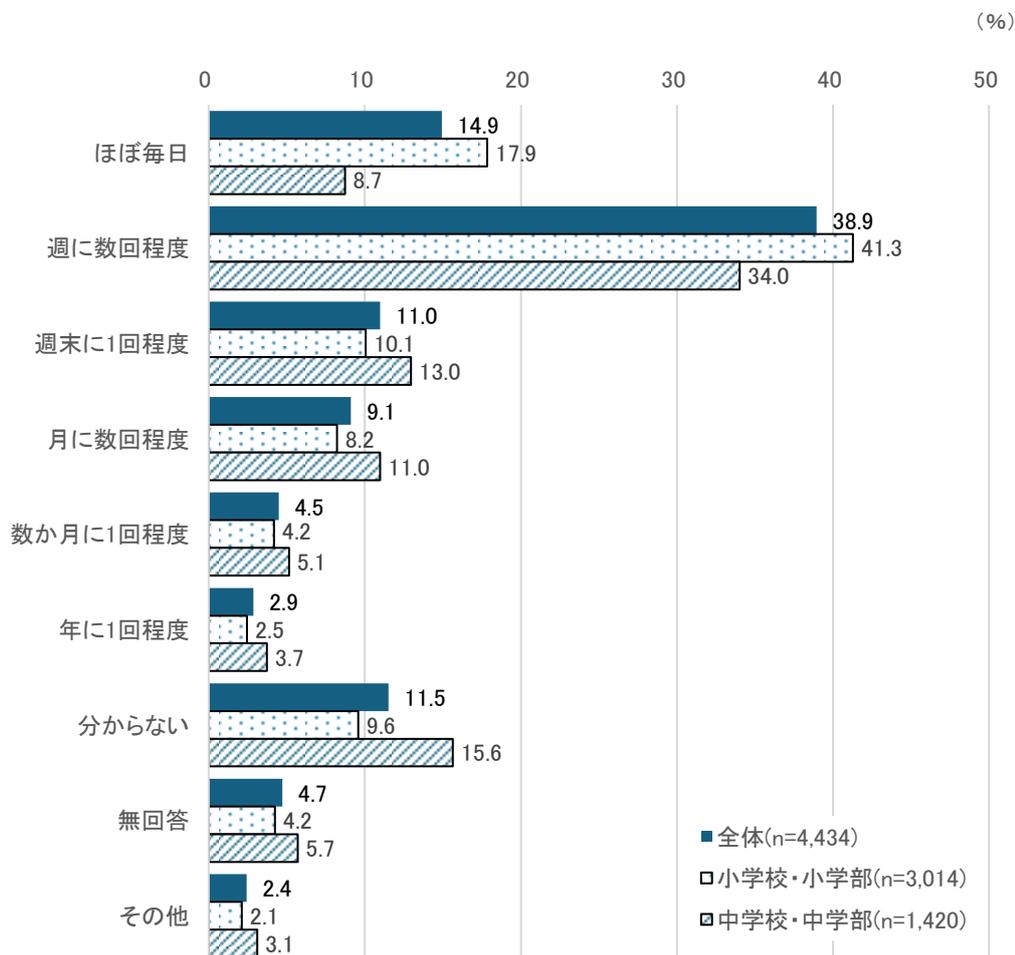


お子さんの現在の学校以外の学びの機会の頻度について全体では、「週に数回程度」が38.9%で最も高く、次いで「ほぼ毎日」が14.9%、「分からない」が11.5%と続いています。

小学校・小学部では、「週に数回程度」が41.3%で最も高く、次いで「ほぼ毎日」が17.9%、「週末に1回程度」が10.1%と続いています。

中学校・中学部では、「週に数回程度」が34.0%で最も高く、次いで「分からない」が15.6%、「週末に1回程度」が13.0%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
ほぼ毎日	538	17.9	124	8.7	662	14.9
週に数回程度	1,244	41.3	483	34.0	1,727	38.9
週末に1回程度	303	10.1	184	13.0	487	11.0
月に数回程度	248	8.2	156	11.0	404	9.1
数か月に1回程度	126	4.2	73	5.1	199	4.5
年に1回程度	74	2.5	53	3.7	127	2.9
分からない	289	9.6	222	15.6	511	11.5
無回答	128	4.2	81	5.7	209	4.7
その他	64	2.1	44	3.1	108	2.4
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳（複数回答）

学校以外の学びは特になし／ほぼない	55
放課後等デイサービスのみ	38
家庭学習のみ（宿題・問題集・親が教える等）	29
学習塾等に通っている	21
学童・フリースクール・療育など限定的な場のみ	14
本人の意欲・体調・特性により継続できない／行けていない	13
運動・習い事中心で学習的な学びはほぼない	11
経済的・距離・送迎の制約で利用できない	10
学びの定義が曖昧で回答しづらい（YouTube 等を含めるか迷う）	9
福祉サービスが満員・対象外で利用できない	8

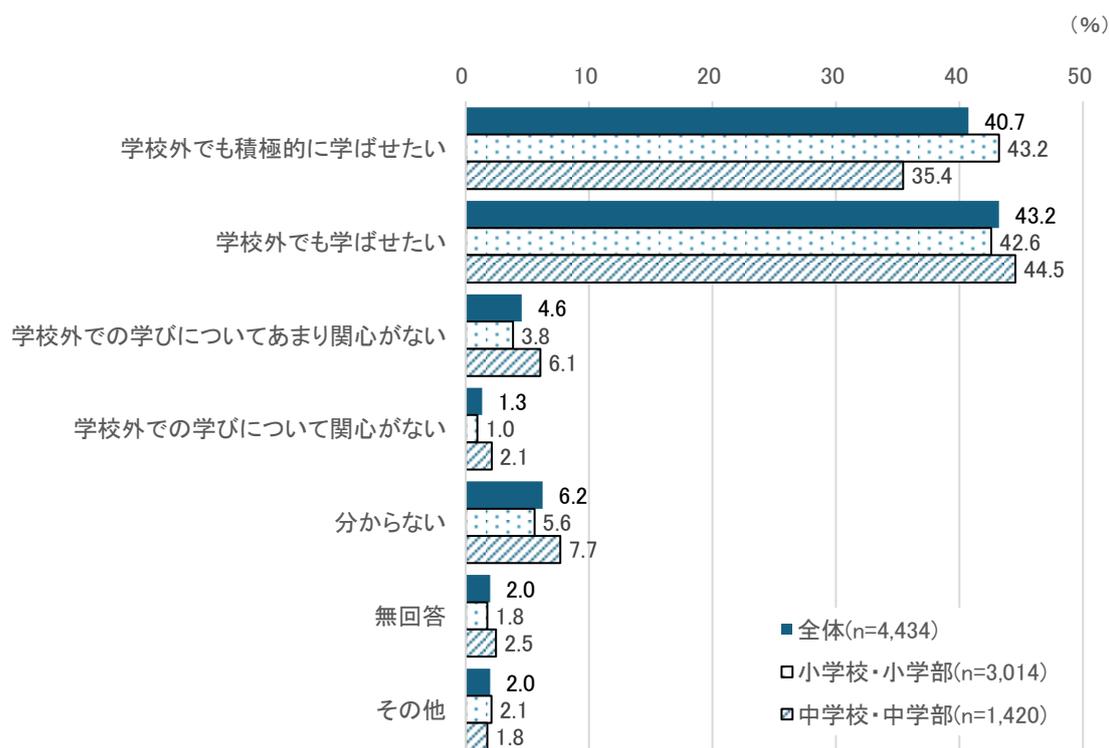
### 4-3 Q23 お子さんの学校以外の学びに関する要望を御回答ください

お子さんの学校以外の学びに関する要望について全体では、「学校外でも学ばせたい」が43.2%で最も高く、次いで「学校外でも積極的に学ばせたい」が40.7%、「分からない」が6.2%と続いています。

小学校・小学部では、「学校外でも積極的に学ばせたい」が43.2%で最も高く、次いで「学校外でも学ばせたい」が42.6%、「分からない」が5.6%と続いています。

中学校・中学部では、「学校外でも学ばせたい」が44.5%で最も高く、次いで「学校外でも積極的に学ばせたい」が35.4%、「分からない」が7.7%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
学校外でも積極的に学ばせたい	1,302	43.2	503	35.4	1,805	40.7
学校外でも学ばせたい	1,283	42.6	632	44.5	1,915	43.2
学校外での学びについてあまり関心がない	116	3.8	86	6.1	202	4.6
学校外での学びについて関心がない	29	1.0	30	2.1	59	1.3
分からない	168	5.6	109	7.7	277	6.2
無回答	53	1.8	35	2.5	88	2.0
その他	63	2.1	25	1.8	88	2.0
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳（複数回答）

学ばせたい気持ちはあるが、本人が嫌がる／意欲がないため難しい	32
学校だけで疲れており、これ以上学びを増やせない・増やしたくない	26
学校での学びが不十分なので、学校外で補完したい	24
どこに・どんな学校外の学びがあるのか分からない	18
本人が興味を持ったこと・やりたいことがあれば学ばせたい	17
送迎・距離・体力・家庭負担が大きく利用が難しい	15
学校内でこそ学びを充実させてほしい(外に出さずに)	14
不登校・登校困難のため、学校外の学びが必要不可欠	11
特性に合う場所がほとんどなく、選択肢がない	10
質問が抽象的・意図が分からず回答しづらい	7

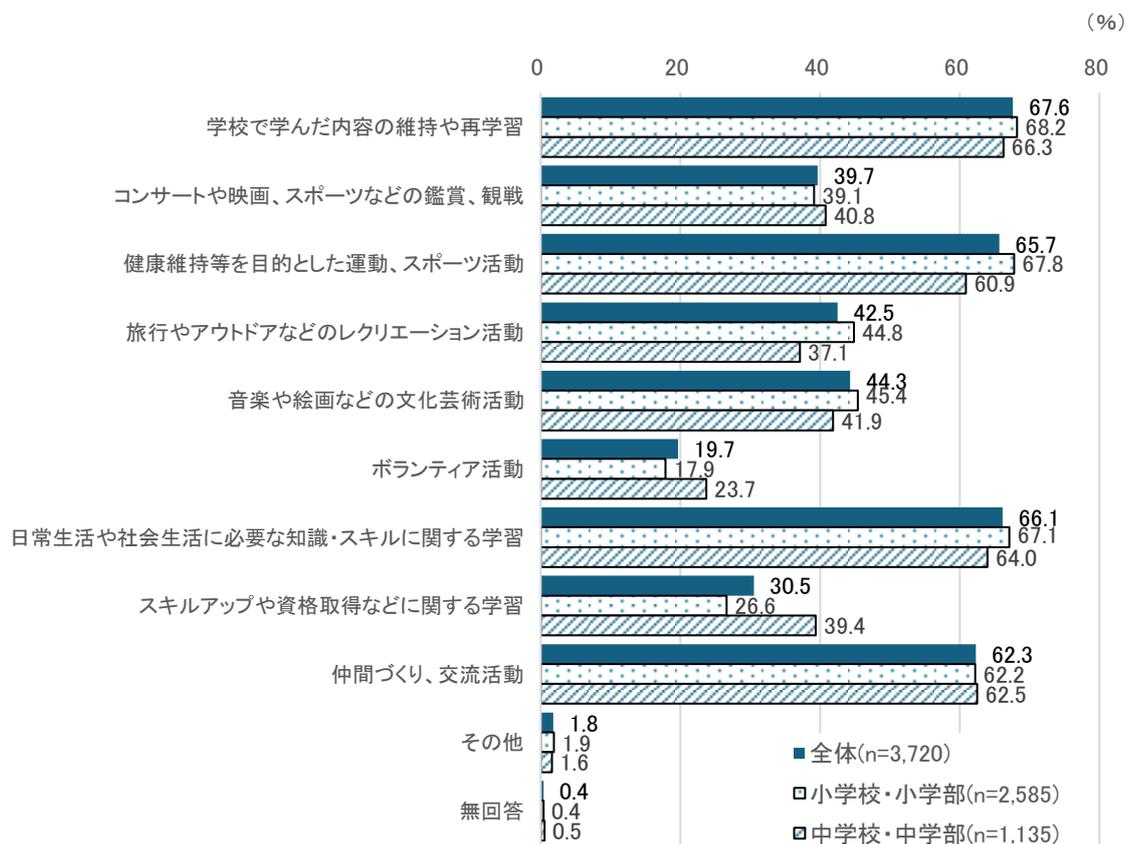
(Q23で「学校外でも積極的に学ばせたい」「学校外でも学ばせたい」を回答した場合)  
 Q24 お子さんに学校以外で学ばせたい内容を御回答ください(複数回答)

お子さんに学校以外で学ばせたい内容について全体では、「学校で学んだ内容の維持や再学習」が67.6%で最も高く、次いで「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が66.1%、「健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動」が65.7%と続いています。

小学校・小学部では、「学校で学んだ内容の維持や再学習」が68.2%で最も高く、次いで「健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動」が67.8%、「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が67.1%と続いています。

中学校・中学部では、「学校で学んだ内容の維持や再学習」が66.3%で最も高く、次いで「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が64.0%、「仲間づくり、交流活動」が62.5%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
学校で学んだ内容の維持や再学習	1,763	68.2	752	66.3	2,515	67.6
コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、観戦	1,012	39.1	463	40.8	1,475	39.7
健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動	1,752	67.8	691	60.9	2,443	65.7
旅行やアウトドアなどのレクリエーション活動	1,159	44.8	421	37.1	1,580	42.5
音楽や絵画などの文化芸術活動	1,173	45.4	475	41.9	1,648	44.3
ボランティア活動	462	17.9	269	23.7	731	19.7
日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	1,734	67.1	726	64.0	2,460	66.1
スキルアップや資格取得などに関する学習	688	26.6	447	39.4	1,135	30.5
仲間づくり、交流活動	1,608	62.2	709	62.5	2,317	62.3
その他	49	1.9	18	1.6	67	1.8
無回答	10	0.4	6	0.5	16	0.4
全体	2,585	100.0	1,135	100.0	3,720	100.0



■ その他の内訳（複数回答）

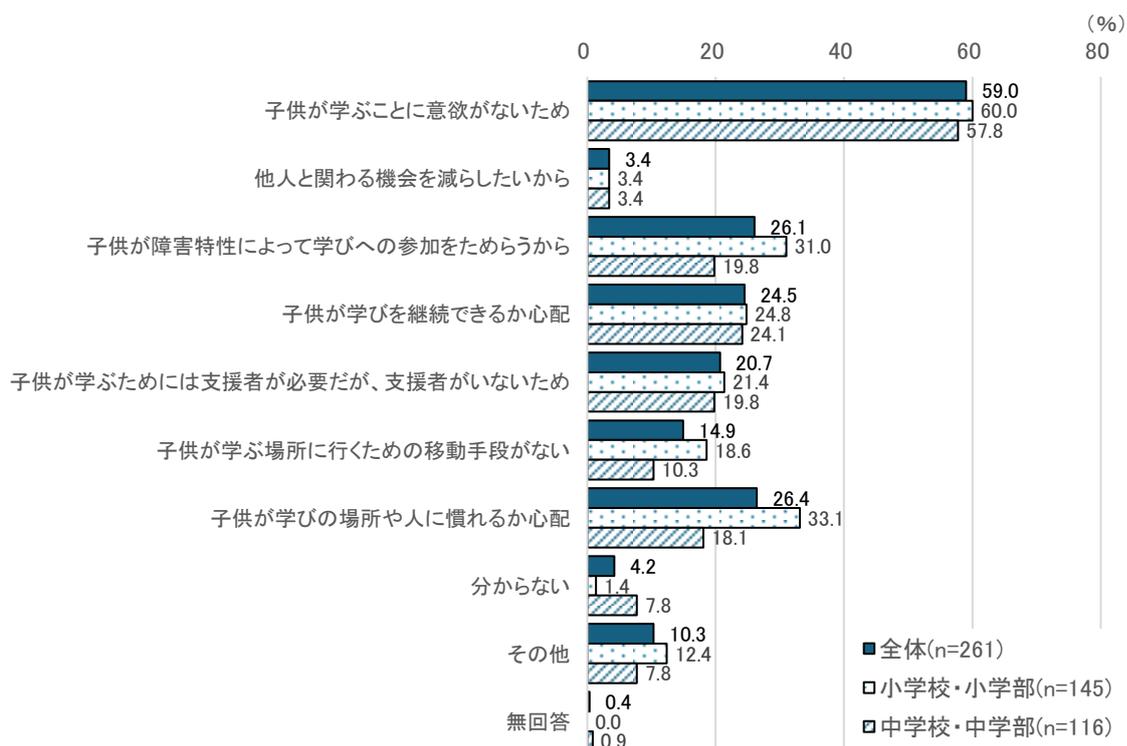
学校では十分に教えられていない学力・学習内容の補完	28
社会性・コミュニケーション・SST等の対人スキルの学び	24
居場所(安心して過ごせる場・休日や長期休暇含む)	19
生活に直結する学び(お金・家事・移動・IT・詐欺対策など)	18
本人の興味・得意を伸ばす探究的・体験的な学び	17
学校では扱われない教科・分野(理科実験、英語、プログラミング等)	15
職業体験・将来の自立や就労を見据えた経験	13
創作・ものづくり・芸術・身体活動など非座学的学び	12
普通級の子・地域の子と関われる交流の機会	10
療育(ST・ABA・認知発達支援など専門的支援)	9

学びに関心がない理由について全体では、「子供が学ぶことに意欲がないため」が59.0%で最も高く、次いで「子供が学びの場所や人に慣れるか心配」が26.4%、「子供が障害特性によって学びへの参加をためらうから」が26.1%と続いています。

小学校・小学部では、「子供が学ぶことに意欲がないため」が60.0%で最も高く、次いで「子供が学びの場所や人に慣れるか心配」が33.1%、「子供が障害特性によって学びへの参加をためらうから」が31.0%と続いています。

中学校・中学部では、「子供が学ぶことに意欲がないため」が57.8%で最も高く、次いで「子供が学びを継続できるか心配」が24.1%、「子供が障害特性によって学びへの参加をためらうから」と「子供が学ぶためには支援者が必要だが、支援者がいないため」が19.8%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
子供が学ぶことに意欲がないため	87	60.0	67	57.8	154	59.0
他人と関わる機会を減らしたいから	5	3.4	4	3.4	9	3.4
子供が障害特性によって学びへの参加をためらうから	45	31.0	23	19.8	68	26.1
子供が学びを継続できるか心配	36	24.8	28	24.1	64	24.5
子供が学ぶためには支援者が必要だが、支援者がいないため	31	21.4	23	19.8	54	20.7
子供が学ぶ場所に行くための移動手段がない	27	18.6	12	10.3	39	14.9
子供が学びの場所や人に慣れるか心配	48	33.1	21	18.1	69	26.4
分からない	2	1.4	9	7.8	11	4.2
その他	18	12.4	9	7.8	27	10.3
無回答	0	0.0	1	0.9	1	0.4
全体	145	100.0	116	100.0	261	100.0



■ その他の内訳（複数回答）

学校生活だけで精一杯・精神的／体力的な余裕がない	11
本人にやる気・興味がない／好きなこと以外は受け付けない	9
低年齢のため、まずは学校生活を優先したい	4
学校の学びで十分・家庭学習で足りていると考えている	4
人が苦手・集団や人の多い場所への強い抵抗感	4
休息や自由時間（遊び・家族との時間）を優先したい	4
環境・立地への不安（繁華街・安全面・場の少なさ）	2
経済的理由	1
人との関わりを学ばせたいが、学習型の場は求めている	1
学校の指導方法との不一致による混乱・学習停滞の経験	1
最低限の学業で十分と考えている	1

## V 学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びのニーズ

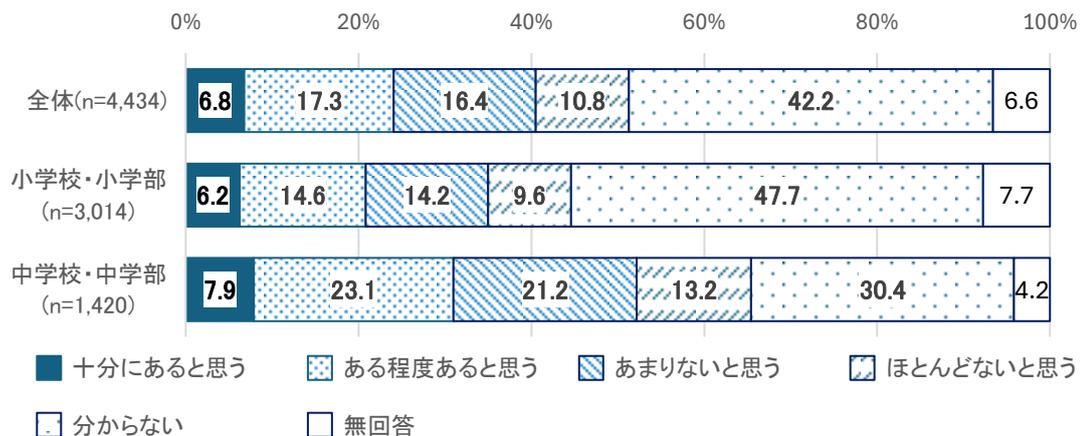
### 5-1 Q26 お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びの機会の状況を御回答ください

お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びの機会の状況について全体では、「十分にありと思う」が6.8%、「ある程度ありと思う」が17.3%と、24.1%が『ありと思う』と回答しました。

小学校・小学部では、「十分にありと思う」が6.2%、「ある程度ありと思う」が14.6%と、20.8%が『ありと思う』と回答しました。

中学校・中学部では、「十分にありと思う」が7.9%、「ある程度ありと思う」が23.1%と、31.0%が『ありと思う』と回答しました。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
十分にありと思う	188	6.2	112	7.9	300	6.8
ある程度ありと思う	439	14.6	328	23.1	767	17.3
あまりないと思う	427	14.2	301	21.2	728	16.4
ほとんどないと思う	290	9.6	188	13.2	478	10.8
分からない	1,437	47.7	432	30.4	1,869	42.2
無回答	233	7.7	59	4.2	292	6.6
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0

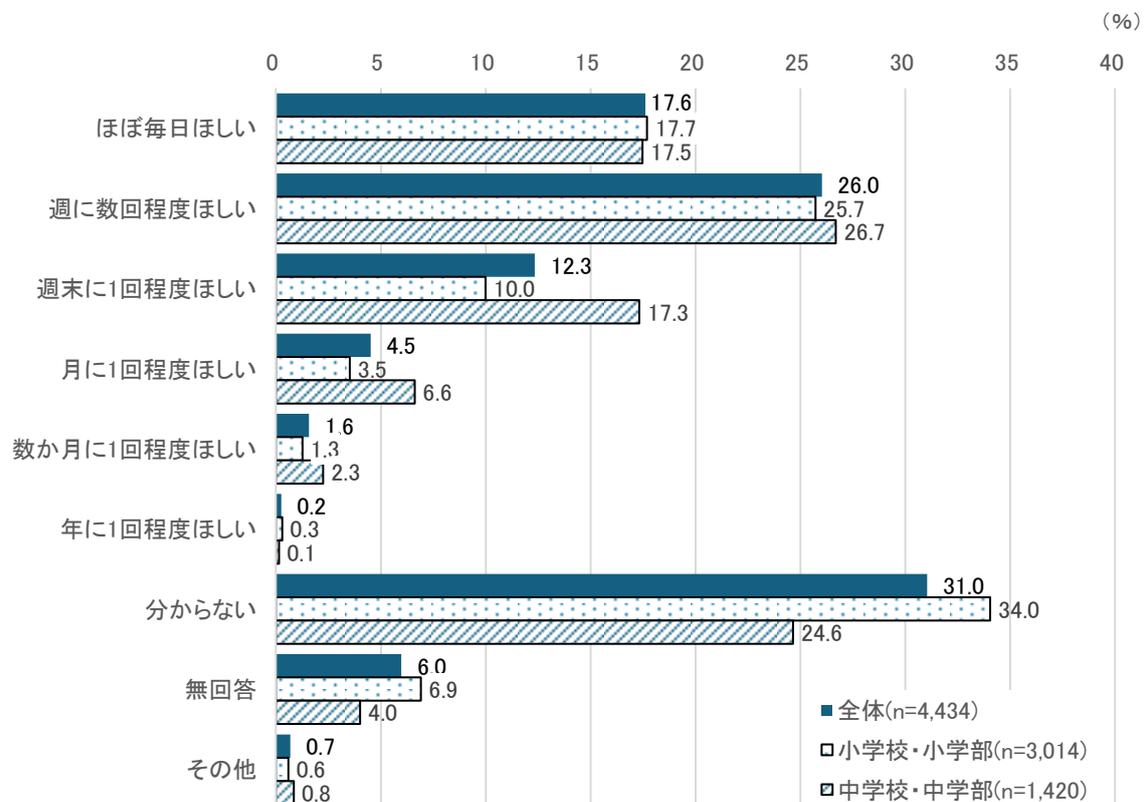


お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びの機会はどの程度あると良いかについて全体では、「分からない」が31.0%で最も高く、次いで「週に数回程度ほしい」が26.0%、「ほぼ毎日ほしい」が17.6%と続いています。

小学校・小学部では、「分からない」が34.0%で最も高く、次いで「週に数回程度ほしい」が25.7%、「ほぼ毎日ほしい」が17.7%と続いています。

中学校・中学部では、「週に数回程度ほしい」が26.7%で最も高く、次いで「分からない」が24.6%、「ほぼ毎日ほしい」が17.5%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
ほぼ毎日ほしい	533	17.7	248	17.5	781	17.6
週に数回程度ほしい	775	25.7	379	26.7	1,154	26.0
週末に1回程度ほしい	301	10.0	246	17.3	547	12.3
月に1回程度ほしい	106	3.5	94	6.6	200	4.5
数か月に1回程度ほしい	38	1.3	32	2.3	70	1.6
年に1回程度ほしい	9	0.3	2	0.1	11	0.2
分からない	1,026	34.0	350	24.6	1,376	31.0
無回答	208	6.9	57	4.0	265	6.0
その他	18	0.6	12	0.8	30	0.7
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳

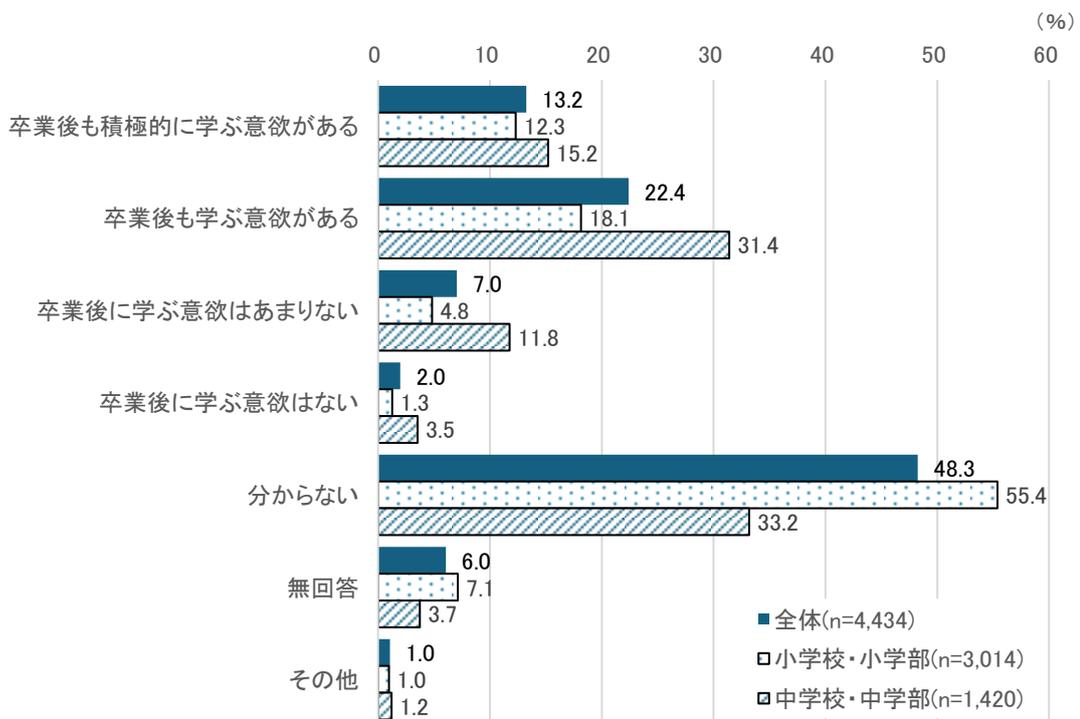
本人の希望・意思を最優先(無理に学ばせない／本人に任せたい)	6
状況やタイミングに応じて柔軟に選べる学びがほしい	6
定期型より、学びたい時にすぐアクセスできる“開かれた場”がほしい	3
定期的に学べる機会がほしい(週 1~2 回・隔週など)	3
就労・資格取得・進学につながる学びの場が不足している	3
質問の意図・前提が分からず答えにくい／回答不能	3
学びそのものは不要・興味を持ったことができる環境が重要	2
高校卒業後の学びは本人に任せ、必要なら支援したい	1
皆に平等に学びの機会があってほしい	1
その他	2

お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びへの意欲について全体では、「分からない」が48.3%で最も高く、次いで「卒業後も学ぶ意欲がある」が22.4%、「卒業後も積極的に学ぶ意欲がある」が13.2%と続いています。

小学校・小学部では、「分からない」が55.4%で最も高く、次いで「卒業後も学ぶ意欲がある」が18.1%、「卒業後も積極的に学ぶ意欲がある」が12.3%と続いています。

中学校・中学部では、「分からない」が33.2%で最も高く、次いで「卒業後も学ぶ意欲がある」が31.4%、「卒業後も積極的に学ぶ意欲がある」が15.2%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
卒業後も積極的に学ぶ意欲がある	371	12.3	216	15.2	587	13.2
卒業後も学ぶ意欲がある	547	18.1	446	31.4	993	22.4
卒業後に学ぶ意欲はあまりない	145	4.8	167	11.8	312	7.0
卒業後に学ぶ意欲はない	38	1.3	50	3.5	88	2.0
分からない	1,669	55.4	471	33.2	2,140	48.3
無回答	215	7.1	53	3.7	268	6.0
その他	29	1.0	17	1.2	46	1.0
全体	3,014	100.0	1,420	100.0	4,434	100.0



■ その他の内訳（複数回答）

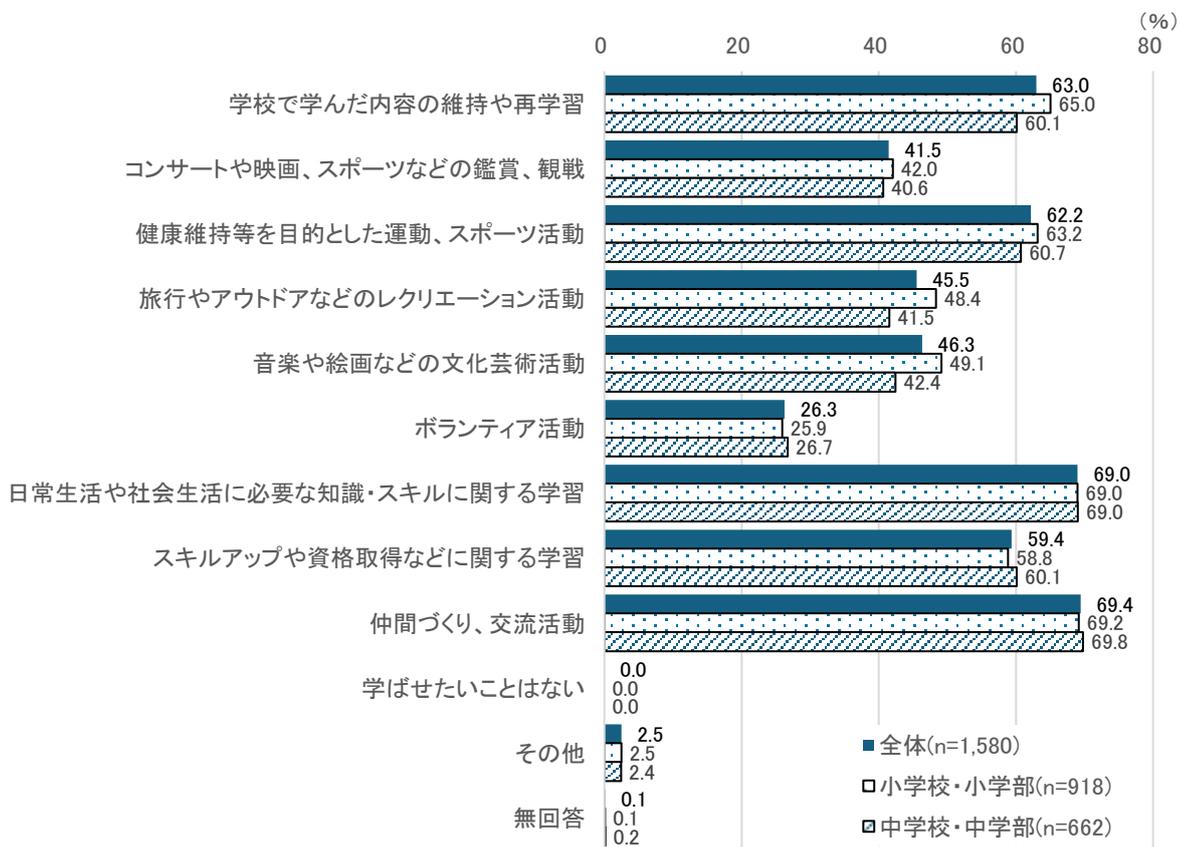
時期尚早・想像できない(小学生／中学生では答えられない)	15
質問の意味・定義が曖昧で無意味／不適切	9
本人の意思次第であり、現時点では分からない・答えられない	8
興味のあることに限れば学ぶ意欲はある	7
意欲はあるが、不安・苦手意識・継続困難が大きい	5
意欲はあるが、学ぶ場所・制度が存在しないことへの不安・問題提起	4
就職するため、学ぶことは想定していない／不要	3
親は学ばせたいが、本人の意欲は不明	3

お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後に学ばせたい内容について全体では、「仲間づくり、交流活動」が69.4%で最も高く、次いで「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が69.0%、「学校で学んだ内容の維持や再学習」が63.0%と続いています。

小学校・小学部では、「仲間づくり、交流活動」が69.2%で最も高く、次いで「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が69.0%、「学校で学んだ内容の維持や再学習」が65.0%と続いています。

中学校・中学部では、「仲間づくり、交流活動」が69.8%で最も高く、次いで「日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」が69.0%、「健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動」が60.7%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
学校で学んだ内容の維持や再学習	597	65.0	398	60.1	995	63.0
コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、観戦	386	42.0	269	40.6	655	41.5
健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動	580	63.2	402	60.7	982	62.2
旅行やアウトドアなどのレクリエーション活動	444	48.4	275	41.5	719	45.5
音楽や絵画などの文化芸術活動	451	49.1	281	42.4	732	46.3
ボランティア活動	238	25.9	177	26.7	415	26.3
日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	633	69.0	457	69.0	1,090	69.0
スキルアップや資格取得などに関する学習	540	58.8	398	60.1	938	59.4
仲間づくり、交流活動	635	69.2	462	69.8	1,097	69.4
学ばせたいことはない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	23	2.5	16	2.4	39	2.5
無回答	1	0.1	1	0.2	2	0.1
全体	918	100.0	662	100.0	1,580	100.0



■ その他の内訳（複数回答）

本人の興味・やりたいことを自由に学ばせたい(本人主体)	10
将来の仕事・進路に関する学び(キャリア・職業関連)	8
大学・専門学校での専門知識・学問を学びたい	5
生活・自立に必要な知識(社会人マナー、金銭管理、制度利用等)	5
IT・デジタルスキル(PC、プログラミング、動画編集等)	4
学習の遅れを補う学び(中学卒業程度・学び直し)	2
創作・表現活動(創作、趣味、関心分野の探求)	2
本人の希望する進路を支えるための学び(進路支援・準備)	2
健康管理・生活管理などの基礎的生活スキル	1
本人が情報を自分で得られる力・情報リテラシー	1

(Q28で「卒業後も積極的に学ぶ意欲がある」「卒業後も学ぶ意欲がある」を回答、かつQ29で「学ばせたいことはない」以外を回答した場合)

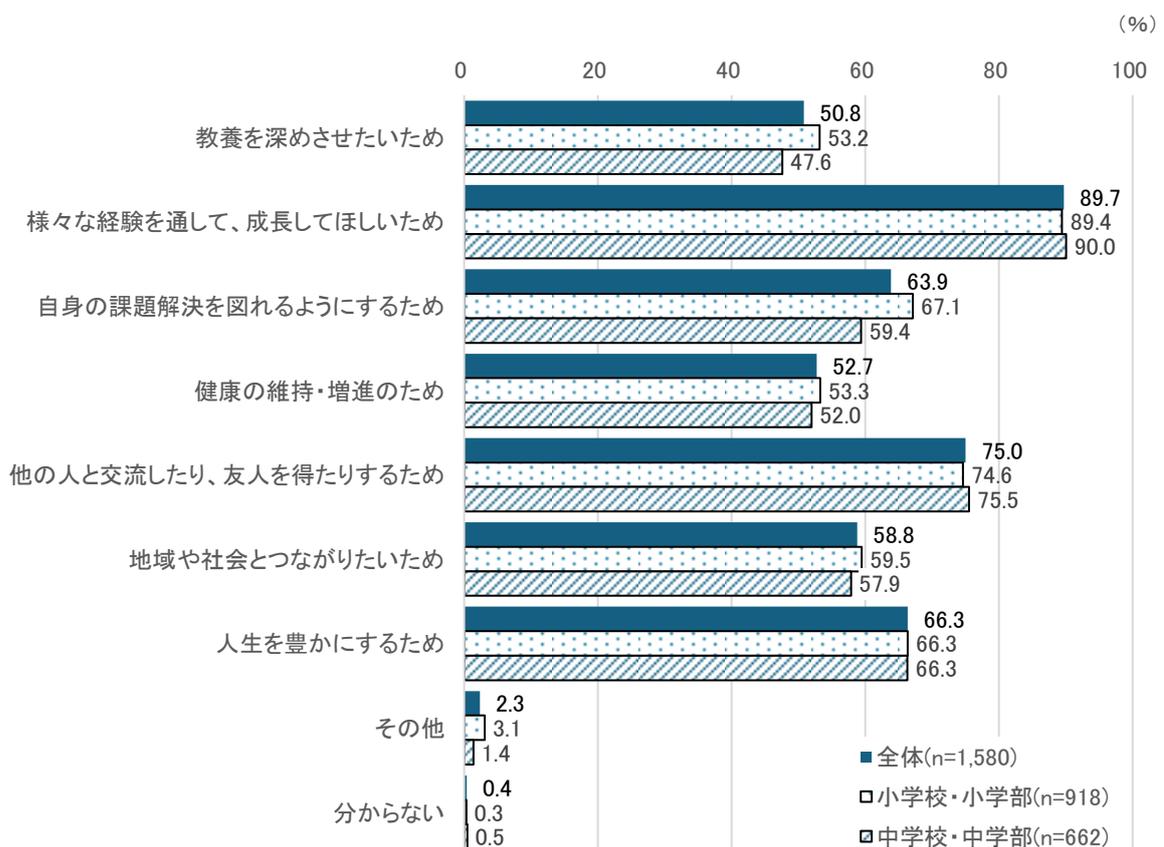
Q30 お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後に学ばせたい理由を御回答ください（複数回答）

お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後に学ばせたい理由について全体では、「様々な経験を通して、成長してほしいため」が89.7%で最も高く、次いで「他の人と交流したり、友人を得たりするため」が75.0%、「人生を豊かにするため」が66.3%と続いています。

小学校・小学部では、「様々な経験を通して、成長してほしいため」が89.4%で最も高く、次いで「他の人と交流したり、友人を得たりするため」が74.6%、「自身の課題解決を図れるようにするため」が67.1%と続いています。

中学校・中学部では、「様々な経験を通して、成長してほしいため」が90.0%で最も高く、次いで「他の人と交流したり、友人を得たりするため」が75.5%、「人生を豊かにするため」が66.3%と続いています。

カテゴリー	小学校・小学部		中学校・中学部		全体	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
教養を深めさせたいため	488	53.2	315	47.6	803	50.8
様々な経験を通して、成長してほしいため	821	89.4	596	90.0	1,417	89.7
自身の課題解決を図れるようにするため	616	67.1	393	59.4	1,009	63.9
健康の維持・増進のため	489	53.3	344	52.0	833	52.7
他の人と交流したり、友人を得たりするため	685	74.6	500	75.5	1,185	75.0
地域や社会とつながりたいため	546	59.5	383	57.9	929	58.8
人生を豊かにするため	609	66.3	439	66.3	1,048	66.3
その他	28	3.1	9	1.4	37	2.3
分からない	3	0.3	3	0.5	6	0.4
全体	918	100.0	662	100.0	1,580	100.0



■ その他の内訳（複数回答）

親亡き後を見据えた自立・生活力・経済力の獲得	8
希望する職業・就労・就職のため(キャリア形成)	8
本人の興味・希望・夢を尊重したい	6
将来の選択肢を広げたい／見通しを持たせたい	5
特別支援学校・支援級の学習・進路環境への不満・課題意識	4
学習や発達がゆっくりで、学ぶ時間がより必要	3
障害があっても社会参加・権利は平等であるべき	3
資格取得・専門性・一芸を身に付けるため	3
社会・経済活動に参加し続けるため	2
共働き家庭への支援不足(預け先・仕組みの欠如)	1
人生を豊かにする時間・経験としての学び	1
その他(時間つぶし／本人が学びたい等)	2

### III. 資料

特別支援学級等卒業後の進路に関する調査項目

I お子さんについて

1	居住地（区市町村名）を御回答ください。※必須	区市町村を選択								
2	在籍している学級又は学校の障害種別を御回答ください。※必須	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱	言語障害	自閉症・情緒障害	分からない	
3	在籍している学級又は学校の学部を御回答ください。	小学校・小学部	中学校・中学部							
4	(質問4で小学校・小学部選択者) お子さんの現在の学年を御回答ください。※必須	1年	2年	3年	4年	5年	6年			
4	(質問4で中学校・中学部選択者) お子さんの現在の学年を御回答ください。※必須	1年	2年	3年						
5	お子さんの性別を御回答ください。※必須	男	女	回答したくない	その他（ ）	無回答				
6	お子さんの愛の手帳の区分を御回答ください。※必須	1度	2度	3度	4度	持っていない	その他（ ）			
7	お子さんの身体障害者手帳の区分を御回答ください。※必須	1級	2級	3級	4級	5級	6級	持っていない		
8	お子さんの精神障害者保健福祉手帳の区分を御回答ください。※必須	1級	2級	3級	持っていない					
9	お子さんの主な意思の伝達方法を御回答ください。※必須	会話でのやりとり	文字や文章を書いて伝える	家族や支援者などに、意思を読み取ってもらう	その他（ ）	無回答				
10	お子さんの着替え、排せつ、食事などの動作能力を御回答ください。※必須	一人で全部できる	一人でできるが、スムーズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	その他（ ）	無回答			
11	お子さんの公共交通機関等の移動に必要な動作能力を御回答ください。※必須	一人で全部できる	一人でできるが、スムーズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	その他（ ）				
12	お子さんの買物やお小遣いの管理などの金銭の管理能力を御回答ください。※必須	一人で全部できる	一人でできるが、スムーズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	その他（ ）	無回答			

II 学校卒業後の進路

13	お子さんの中学校・中学部卒業後に希望する進路先を御回答ください。※必須	特別支援学校高等部への進学	高等学校への進学	専修学校等への進学	障害者職業能力開発校等での訓練	企業への就労	福祉サービス（福祉型大学「カレッジ」の利用【自主訓練（生活訓練）と就労移行等についてはこちらを選択してください。】）	福祉型大学「カレッジ」の利用【自主訓練（生活訓練）と就労移行等についてはこちらを選択してください。】	その他（ ）	
		まだ検討していない								
14	(質問13で特別支援学校高等部、高等学校、専修学校等への進学選択者) お子さんの高等学校段階卒業後に希望する進路先を御回答ください。※必須	大学・短期大学への進学	専修学校・専門学校への進学	障害者職業能力開発校等での訓練	企業への就労	福祉サービス（福祉型大学「カレッジ」を除く）の利用【自主訓練（生活訓練）と就労移行等についてはこちらを選択してください。】	福祉型大学「カレッジ」の利用【自主訓練（生活訓練）と就労移行等についてはこちらを選択してください。】	その他（ ）	まだ検討していない	
15	(質問13で能力開発校・福祉型大学「カレッジ」選択)・(質問14で大学・短期大学・専修学校・専門学校・能力開発校・福祉型大学「カレッジ」選択者) その理由を御回答ください。(複数回答可) ※必須	知識や教養を高めさせたいから	子供が働けるのはまだ早いと思うから	きょうだいや身の回りの人が進学しているから	その他（ ）	無回答				
16	(質問13若しくは質問14で企業就労、福祉サービス利用選択者) その理由を御回答ください。(複数回答可) ※必須	働いて給料をもらってほしいから	家族を安心させてほしいから	自立した生活をしてほしいから	家族に勧められているから	学校の先生に勧められているから	きょうだいや身の回りの人が働いているから	その他（ ）	無回答	
17	進路について相談できる人を御回答ください。(複数回答可) ※必須	家族	友人・知人	学校の先生	相談相手はいない	その他（ ）	無回答			
18	進路に関する情報は、学校から十分に提供されていますか。※必須	十分に提供されている	提供されている	どちらとも言えない	あまり提供されていない	提供されていない	その他（ ）	無回答		

III 放課後や休日の学びの場・方法の理解

(補足説明) 本調査における「学び」とは、自宅でのテレビやインターネット、書籍等を活用した学び、民間サービスや地域の生涯学習センターなどの講座や活動、地域や団体におけるスポーツ活動、学校、大学等での公開講座への参加、図書館・博物館等の利用といった、学習の機会全般を指す。

19	放課後や休日にお子さんが学ぶための情報の入手方法を御回答ください。(複数回答可) ※必須	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌・本	インターネット（ホームページ・SNSなど）	電話での問合せ（携帯電話・スマートフォンなど）	身近な人への相談（家族、友人、支援者など）	福祉機関や公民館等からの案内	その他（ ）	特になし
20	放課後や休日にお子さんが学ぶための情報の入手や、活動団体とコミュニケーションをとる上で困りそうなことを御回答ください。(複数回答可) ※必須	無回答	お子さんにとって初めての場所以外、どこに行けばよいかわからないこと	お子さんにとって初めての人の言っていることがよく分からないことや、自分の言いたいことが、うまく伝わらないこと	お子さんにとってインターネットの使い方がよく分からないこと（パソコン、スマートフォン）	お子さんにとってメールの使い方がよく分からないこと	お子さんにとって情報を入手したり、コミュニケーションをとることが難しいこと	その他（ ）	特に困らないと思う

IV 在学中の学びのニーズ

(補足説明) 本調査における「学び」とは、自宅でのテレビやインターネット、書籍等を活用した学び、民間サービスや地域の生涯学習センターなどの講座や活動、地域や団体におけるスポーツ活動、学校、大学等での公開講座への参加、図書館・博物館等の利用といった、学習の機会全般を指す。

21	お子さんの現在の学校以外の学びの機会を御回答ください。※必須	十分にある	ある程度ある	あまりない	ほとんどない	分からない				
22	お子さんの現在の学校以外の学びの機会の頻度を御回答ください。※必須	ほぼ毎日	週に数回程度	週末に1回程度	月に数回程度	数か月に1回程度	年に1回程度	分からない	その他（ ）	
23	お子さんの学校以外の学びに関する要望を御回答ください。※必須	学校外でも積極的に学ばせたい	学校外でも学ばせたい	学校外での学びについてあまり関心がない	学校外での学びについて関心がない	分からない	その他（ ）	無回答		
24	(23で学校外でも積極的に学ばせたい・学校外でも学ばせたいとの回答選択者) お子さんに学校以外で学ばせたい内容を御回答ください。(複数回答可) ※必須	学校で学んだ内容の維持や再学習	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、観戦	健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動	旅行やアウトドアなどのレクリエーション活動	音楽や絵画などの文化芸術活動	ボランティア活動	日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	スキルアップや資格取得などに関する学習	
25	(23で学校外での学びについてあまり関心がない・学校外での学びについて関心がないとの回答選択者) 学びに関心がない理由を御回答ください。(複数回答可) ※必須	子供が学ぶことに意欲がないため	他人と関わる機会を減らしたいため	子供が障害特性によって学びへの参加をためらうから	子供が学びを継続できずから心配	子供が学ぶためには支援者が必要だが、支援者がいないため	子供が学ぶ場所に行くための移動手段がない	子供が学びの場所や人に慣れるから心配	分からない	

V 学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びのニーズ

(補足説明) 本調査における「学び」とは、自宅でのテレビやインターネット、書籍等を活用した学び、民間サービスや地域の生涯学習センターなどの講座や活動、地域や団体におけるスポーツ活動、学校、大学等での公開講座への参加、図書館・博物館等の利用といった、学習の機会全般を指す。

26	お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びの機会の状況を御回答ください。※必須	十分にあると思う	ある程度あると思う	あまりないと思う	ほとんどないと思う	分からない	無回答			
27	お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びの機会の頻度を御回答ください。※必須	ほぼ毎日ほしい	週に数回程度ほしい	週末に1回程度ほしい	月に1回程度ほしい	数か月に1回程度ほしい	年に1回程度ほしい	分からない	その他（ ）	
28	お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後の学びへの意欲を御回答ください。※必須	卒業後も積極的に学ぶ意欲がある	卒業後も学ぶ意欲がある	卒業後に学ぶ意欲はない	卒業後に学ぶ意欲はない	分からない	その他（ ）	無回答		
29	(28で積極的に学ぶ意欲がある、学ぶ意欲があるの回答選択者) お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後に学ばせたい内容を御回答ください。(複数回答可) ※必須	学校で学んだ内容の維持や再学習	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、観戦	健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動	旅行やアウトドアなどのレクリエーション活動	音楽や絵画などの文化芸術活動	ボランティア活動	日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	スキルアップや資格取得などに関する学習	
30	(28で積極的に学ぶ意欲がある、学ぶ意欲があるの回答選択者) お子さんの学校【高等部（高等学校等を含む）】卒業後に学ばせたい理由を御回答ください。(複数回答可) ※必須	教養を深めさせたいため	様々な経験を通して、成長してほしいため	自身の課題解決を図れるようになるため	健康の維持・増進のため	他の人と交流したり、友人を得たりするため	地域や社会とつながりたいため	人生を豊かにするため	分からない	